

## シラバス

科目No K-001 生物学		配当時期 1年次前期	講義担当者 1～8回:後藤文之 9～15回:江原史雄
		単位数 1単位	
		時間数 30時間	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標 人間を生物学的に捉え、生物がお互いにどのような関わりを持って生活していることを理解することができる。また、悪化する環境破壊の現状を把握し、適切に対応する能力を養うことができる。 1. 生命の起源と進化の理論を理解することができる 2. 生物がお互いにどのような関わりを持っているかを、エネルギーの循環を中心として理解することができる 3. 変動する現代環境の現状を理解することができる 4. 地球環境からヒトの未来について考えることができる			
DPとの関連 DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP7: 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	生命体のつくりとはたらきについて理解できる。 (生物学における構造と機能)	講義	
2	生命体のつくりとはたらきについて理解できる。 (細胞の化学成分)	講義	
3	生体維持のエネルギーについて理解できる。 (生体内の化学反応)	講義	
4	細胞の増殖とからだの成り立ちについて理解できる。	講義	
5	遺伝情報とその伝達・発現のしくみについて理解できる。 (遺伝の法則)	講義	
6		講義	
7	遺伝情報とその伝達・発現のしくみについて理解できる。 (遺伝情報とDNA複製)	講義	
8	遺伝情報とその伝達・発現のしくみについて理解できる。 (遺伝情報の伝達-RNA)	講義	
9	生殖と発生について理解できる。	講義	
10	神経系における情報処理の特徴を理解できる。	講義	
11	環境の情報とその受容について理解できる。	講義	
12	神経系の系統的発達と効果器のはたらきが理解できる。	講義	
13	ホメオスタシスと各器官系のはたらきについて理解できる。	講義	
14		講義	
15	生命の進化と多様性や地球環境とヒトとの共存について理解できる。	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅲ-10-A-p 人体の構造と機能 1-A～E、2-A、B、3-A～C、5-A～G、 8-A、15-A～C			
受講上の注意 これまでに学んだ生物の学習を振り返り、人体の構造と機能や疾病に結び付けられるようにしてほしい。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎 生物学 医学書院			
参考文献			

## シラバス

科目No K-002 物理学	配当時期 1年次前期	講義担当者 西島備治	
	単位数 1単位		
	時間数 30時間	担当者の実務経験	
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 看護を物理学の観点から物理的思考で考え理解を深めることができる。 1. 人体の構造を、物理学の観点から考え看護に応用することができる。 2. 物理学の法則や数式から、日常生活に身近な物理現象を理解することで、看護を科学的根拠に基づき実践できるようになる。 3. 看護を科学的根拠に基づいて考え実践することができる。 4. 日常生活に身近な物理現象を理解し看護に活かすことで看護の奥ぶかさを感じ、研究心をもつことができる。			
<b>DPとの関連</b> DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP4: 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。 DP7: 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解できる。			
<b>授業の流れ</b>			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	物理学を学ぶ意義について理解できる。	講義	
2	運動と力について理解できる。(物体の運動・力と加速・力のつり合い)	講義	
3	運動と力について理解できる。(力のモーメント・仕事とエネルギー・圧力)	講義	
4	運動と力について理解できる。(力のモーメント・仕事とエネルギー・圧力)	演習	レポート
5	熱と温度について理解できる。(熱量と温度・熱の伝わり方・温度による水の変化)	講義	
6	熱と温度について理解できる。(気体の法則・エネルギー保存の法則)	講義	
7	熱と温度について理解できる。(気体の法則・エネルギー保存の法則)	演習	レポート
8	音の伝わり方について理解できる。	講義	
9	音の伝わり方について理解できる。	演習	レポート
10	光の伝わり方について理解できる。	講義	
11	光の伝わり方について理解できる。	演習	レポート
12	電気について理解できる。	講義	
13	磁気について理解できる。	講義	
14	放射線について理解できる。	講義	
15	物理学と看護との関連性について学び、今後の看護援助にいかすことができる。	グループワーク	レポート
<b>受講上の注意</b> 基礎看護学技術や臨床検査などの基礎知識となるために、日常から物理的な意味を考えて行動できるようにする。		<b>評価方法</b> 筆記試験 100点	
<b>使用するテキスト</b> 系統別看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院			
<b>参考文献</b>			

## シラバス

科目No	K-003	配当時期	1年次	講義担当者
科目名	論理的思考	単位数	1単位	佐長 健司
		時間数	30時間(15回)	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
<p>目標は、論理的な思考・表現について、理論と実践の両面から学ぶことにある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 状況や文脈をも十分に考慮しながら、思考・表現を論理的に展開することについて考察する。</li> <li>2 論理的な思考・表現に関する多様な理論について理解する。</li> <li>3 自己の主張を論理的に表現し、よりよく他者に伝達することを試みる。</li> <li>4 他者の主張をよりよく聴き取ること、読み取ることを試みる。</li> </ol>				
DPとの関連				
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。			
DP4	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断をすることができる。			
DP6	保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種との連携協働しながら多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。			
DP7	専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続けることができる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	講義の目的と概要 論理的な思考と表現の必要性と講義計画について知る。	講義		
2	ソクラテスの死 分析的議論と無知の知について理解する。	講義・演習・グループ学習		
3	トウルミンの議論のレイアウト 分析的議論とは異なる実質的議論について理解する。	講義・演習・グループ学習		
4	議論(1)主張 トウルミンの議論のレイアウトによって、主張を分析する。	講義・演習・グループ学習		
5	議論(2)異論と批判 トウルミンの議論のレイアウトによって、異論と批判との区別について理解する。	講義・演習・グループ学習		
6	議論(3)引用 トウルミンの議論のレイアウトによって、主張と批判のための引用について理解する。	講義・演習・グループ学習		
7	アブダクション 仮説形成としての拡張的な推論について理解する。	講義・演習・グループ学習		
8	弁証法(1) 動的な対話的思考としての弁証法について理解する。	講義・演習・グループ学習		
9	弁証法(2) 弁証法を活用して文章を書く。	講義・演習・グループ学習		
10	レトリック(1) 効果的な表現としてだけでなく、認識を新たにする論証と文彩のレトリックについて理解する。	講義・演習・グループ学習		
11	レトリック(2) 論証と文彩のレトリックを活用して文章を書く。	講義・演習・グループ学習		
12	発達の最近接領域 すぐれた他者とともに思考・表現することによる発達について理解する。	講義・演習・グループ学習		
13	実存的な思索 思考と表現について熟慮と省察することの必要性を理解する。	講義・演習・グループ学習		
14	人工知能と人間の論理 人工知能とは異なり、人間の論理は直接経験によって基礎づけられていることを理解する。	講義・演習・グループ学習		
15	自己の学習についての振り返り/受験の準備	講義・演習・グループ学習		
関連科目: 社会学、倫理学、看護学概論、看護理論、看護倫理				
受講上の注意				評価方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的な思考・表現に関する理論の理解が難しく感じられても、あきらめないでほしい。なぜなら、具体的な事例を参照したり、実践的に文章を書いたりすることによって、しだいに理解が得られるからである。</li> <li>2. 誤りや曖昧さを恐れることなく、自分の意見を記述したり述べたりすることに、積極的であってほしい。そもそも、論理的な思考・表現において正解はなく、曖昧さを完全に排除することはできないからである。蓋然的に正当性と説得性を高めるように、思考・表現することを継続するしかない。</li> </ol>				試験 50%
				レポート 30%
				参加の態度 20%
使用するテキスト	テキストに代えて、講義資料を配布する。			
参考文献	講義資料に明記するなどして知らせる。			

## シラバス

科目No K-004 発達心理学	配当時期 1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 大元 誠 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>1. 人間が他者や社会、文化などの周りの世界と関わりながら胎児期から老年期まで生涯を通じて、発達していく存在であることを理解することができる。</p> <p>2. 人間にとって重要な認知・言語やパーソナリティ・対人関係等は、さまざまな環境と行為を通して相互作用しながら発達することについて理解することができる。</p> <p>3. 最新の研究成果や統計から認知・言語の発達や、パーソナリティ・対人関係の発達について関心を持ち現在の状況を確認することができる。</p>			
DPとの関連			
<p>DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。</p> <p>DP7: 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要と方法を理解できる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	心理学とはどのような学問かを歴史を通して理解できる。	講義	
2	環境を知るしくみ(認知機能)を理解できる。	講義	
3	感情と動機づけのメカニズムが理解できる。	講義	
4	発達とは何か(発達の観点)を考慮することができる。	講義	
5	発達の要因(遺伝と環境)について理解できる。	講義	
6	発達のしくみとしての環境を理解できる。	講義	
7	胎児期の発達:生物としてのヒトの特徴と発達の基礎を理解できる。	講義	
8	乳幼児期の発達課題と特徴:アタッチメントを理解できる。	講義	
9	児童期の発達課題と特徴①:言語の発達を中心に理解できる。	講義	
10	児童期の発達課題と特徴②:対人関係(学びと遊び)を中心に理解できる。	講義	
11	思春期・青年期の発達課題と特徴①:アイデンティティを中心に理解できる。	講義	
12	思春期・青年期の発達課題と特徴②:親密性中心にを理解できる。	講義	
13	成人・高齢者の発達課題と特徴①:世代継承性を中心に理解できる。	講義	
14	成人・高齢者の発達課題と特徴②:対象喪失を中心として理解できる。	講義	
15	まとめ:生涯発達の観点とヒトのパーソナリティを理解できる。	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅱ-6-A～B、目標Ⅱ-7-A～G			
受講上の注意		評価方法	
<p>・毎回、講義後、指示するメールアドレスに、講義内容等についての意見・感想・質問等を送信要領に基づき、送信ください。回答を必要とする場合は、&lt;質問&gt;と明記して、送信ください。必要があれば、回答は、講義内で全員にしたいと思います。小課題を付す場合もあります。</p>		筆記試験 60点 課題提出 40点	
使用するテキスト			
系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院			
参考文献 看護ための人間発達学 医学書院			
よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房			
いちばんはじめに読む心理の本 発達心理学 藤村宣之編著 ミネルヴァ書房			

## シラバス

科目No K-005 文化人類学	配当時期	1年次前期	講義担当者 永吉 守
	単位数	1単位	
	時間数	30時間	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標			
<p>世界の多様な生活様式・儀礼・人々の関係性、宗教などを通して、人類の多様性と普遍性を考え、より深い人間理解につなげることができる。</p> <p>人間が生きていくことを文化(医療を含むもの)の側面から興味を持ち、人間への理解を深めることができる。</p> <p>人間が持つ社会や文化の存在意義を理解し、その多様性について知ることができる。</p> <p>グローバルな現代社会において多様性を尊重した多文化共生社会を指向し行動することができる。</p> <p>人の死について、人間の文化がどのように規定し対処してきたかを知り、その文化的課題について考えることができる。</p>			
DPとの関連			
<p>DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP2: 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間形成をすることができる。</p> <p>DP3: 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	イントロダクション、文化人類学とはどういう学問か	講義	
2	文化人類学の視点を手法(フィールドワーク、エスノグラフィ)	講義	
3	「文化」とは何か、「社会」とは何か	講義	
4	文化相対主義と自民族中心主義	講義	
5	ことば・衣食住・生業の比較文化	講義	
6	「社会」や「文化」の単位	講義。一部演習・発表	
7	家族・親族組織・結婚・出自 その1	講義	
8	家族・親族組織・結婚・出自 その2	講義	
9	信仰・宗教・儀礼	講義	
10	「死」についてー社会・文化的側面と死者儀礼ー	講義、動画視聴、ディスカッション	
11	グローバリゼーションと異文化理解 その1	講義	
12	グローバリゼーションと異文化理解 その2	講義、写真閲覧等	
13	多文化共生への道	講義、動画視聴、ディスカッション	
14	医療・看護と文化人類学(医療人類学)	講義	
15	現代社会と文化人類学(新しい親密圏と互酬性)、まとめ	講義、ディスカッション	
受講上の注意			評価方法
<p>毎回、電子フォームによる質問・感想を提出してもらい、期限内に提出をすることで出席とする。</p> <p>質問事項については、基本的にまとめて回答する。</p>			レポート 100点
使用するテキスト			
特になし			
参考文献			
波平恵美子(編)『文化人類学』(系統看護学講座基礎分野、第4版)医学書院、2021年			

## シラバス

科目No	K-008	配当時期	1年次	講義担当者
科目名	人間関係論	単位数	1単位	担当者の実務経験
		時間数	15時間(8回)	
科目全体のねらい・授業目標				
目的 人間を人と人との相互作用で成長する存在として捉え、人間関係を円滑に保つ必要性和その方法について理解する。				
目標 1.人間関係を理解するための基礎となる基礎的知識を理解する。 2.他者を理解し、人間関係を構築するための基盤となる自己理解を深めることができる。 3.エンカウンターを通して、集団の中の自分を見つめ、自己の特性について理解することができる。				
DPとの関連				
DP2 人間関係構築のための基礎的知識を身に付ける。				
DP3 多様化する社会のなかで、他者理解・自己理解を深めるための基礎的能力を身に付ける。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	人間関係とは何かを理解することができる。(他者と自分を知る)	講義		
2	人間関係の基本ルールについて理解できる。	講義・演習		
3	人間関係の目的について理解できる。	講義・DVD		
4	関係的存在としての人間について理解できる。 (人を好きになる条件と七つの習慣)	講義・演習	レポート	
5	コミュニケーションのあり方について理解できる。	講義・演習		
6	集団のなかの私について考えることができる。	講義・演習	リフレクションシート	
7	エンカウンターワークショップを通して自己理解を深めることができる。(集団行動による自己成長)	講義・演習	リフレクションシート	
8	これからの自分について考えることができる。 (看護とわたし)	講義・演習	レポート	
受講上の注意				評価方法
演習には積極的に参加し、体験的に学習すること。				レポートおよびリフレクションシート 30%
レポートについては、素直な自分を表現し、自己理解に努めてほしい。				
				筆記試験 70%
使用するテキスト				
系統看護学講座 基礎分野 人間関係論(医学書院)				
参考文献 授業のなかで提示する				

## シラバス

科目No K-009	配当時期 1年次	講義担当者 細川佳博  担当者の実務経験
科目名 カウンセリング論	単位数 1単位	
	時間数 30時間(15回)	

## 科目全体のねらい・授業目標

目的 カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の場面で適切なコミュニケーションができることを目的とする。

- 目標
1. カウンセリングの基本的概念について理解できる。
  2. コミュニケーションの基礎的なスキルについて理解できる。
  3. 他者理解、自己理解のためのコミュニケーションスキルについて理解できる。
  4. ロールプレイを通して、自己のコミュニケーションの特徴について気づくことができる。
  5. 自分の視点からだけでなく、相手の立場から自分自身の在り方に気づくことができる。
  6. カウンセリングの理論が看護場面でどのように役立つか考えることができる。

## DPとの関連

- DP1 人間は相手との関わりの中で存在していく生き物として捉えることができる。  
DP2 相手の悩みや問題に真摯に向き合い、良好な関係で解決していく基礎的能力を養う。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	心の構造とはたらきについて理解できる。(こころの発達)	講義	
2	心の構造とはたらきについて理解できる。(心理学の理論)	講義	
3	心の構造とはたらきについて理解できる。(自我の形成)	講義	
4	看護におけるカウンセリングの根本的な考え方について理解できる。	講義	
5	「無条件の肯定的関心」について理解できる。	講義	
6	「共感的理解」について理解できる。	講義	
7	「自己一致」について理解できる。	講義	
8	ロールプレイ① 傾聴する技術について理解できる。	演習	リフレクションシート
9	ロールプレイ② 相手の感情を考えることについて理解できる。	演習	リフレクションシート
10	コミュニケーションスキルについて理解できる。(言い換え・共感)	講義	
11	ロールプレイ③ 言い換え・共感する技術について理解できる。	演習	リフレクションシート
12	コミュニケーションスキルについて理解できる。(アサーティブネス)	講義・演習	
13	ロールプレイ④ アサーティブネスについて理解できる。	演習	リフレクションシート
14	コミュニケーションスキルについて理解できる。(コーチング)	講義・演習	
15	ロールプレイ⑤ コーチングについて理解できる。	演習	リフレクションシート

講義では理論の解説を行い、看護や実生活の実践につなげて考える機会とするため、自己のコミュニケーションの傾向についてレポートを提出(最終)評価とする。

リフレクションシート、レポートの未提出および試験を欠席した場合は0点とする。

## 受講上の注意

1. ロールプレイには積極的に参加し、体験的に理解してほしい。
2. ロールプレイで知り得た個人情報等は守秘することを原則とする。
2. ロールプレイの際は十分な感染対策を行い実施する。

評価方法  
リフレクションシート 25%  
レポート 25%  
筆記試験 50%

## 使用するテキスト

随時配布する

## 参考文献

『ロジャーズ選集(上)カウンセラーなら一度は読んでおきたい厳選33論文』(誠信書房)

## シラバス

科目No K-010	配当時期 1年次	講義担当者	
科目名 社会学	単位数 1単位	森 康司	
	時間数 30時間(15回)	担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
目的	現代社会における『ひと』の特性や文化的・多様な社会的背景および看護の対象者が生活する地域・社会について理解できる基礎的知識を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちが暮らす社会のしくみについて理解できる。</li> <li>2. 社会学的なものの見方に親しみ、その意義を理解できる。</li> <li>3. 現代社会における『ひと』の特徴について理解できる。</li> <li>4. 社会と医療について理解し、社会的な課題について考えることができる。</li> </ol>		
DPとの関連			
DP1	多様な文化や価値観をもつ人と人との様々な関係や結合からなる社会について、成り立ちやあり方について理解する。		
DP1	社会のなかで影響し合いながら成長し続ける人間を理解できる。		
DP3	社会で発生するさまざまな事象についてものごとを広い視点で多角的にとらえ、職業人として柔軟な思考を身につける		
DP3	社会における看護や看護職の位置づけについて考え、健康と社会について理解を深める。		
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	「社会」とはなにかについて理解することができる。	講義	
2	社会学的想像力について理解できる。	講義	
3	産業化以前の社会や家族の特徴について理解できる。 (私たちがこれから生きていく社会)	講義	
4	産業化以降の社会や家族の特徴について理解できる。 (私たちがこれから生きていく社会)	講義	
5	官僚制組織の特徴と、その逆機能について理解できる。	講義	
6	サービス業における感情労働の課題について考えることができる。	講義	
7	日本社会における労働の特徴について理解できる。	講義	
8	若者の働き方と課題について考えることができる。	講義	
9	女性の就業上の課題について考えることができる。	講義	
10	少子化が進む背景について理解できる。	講義	
11	社会の変化が未婚化・晩婚化に与える影響について理解できる。	講義	
12	医療と社会の関連について理解することができる。 (健康と社会)	講義	
13	医療と社会の関連について理解することができる。 (医療病と健康不安)	講義	
14	現代社会における死生観の特徴について考えることができる。	講義	
15	終末期の医療と社会の関連について考え、現代社会が抱える問題について理解することができる。	講義・映像	
筆記試験を欠席した場合は0点とする。			
受講上の注意		評価方法	
		レポート10%	
		筆記試験90%	
使用するテキスト	随時配布する		
参考文献	講義の中で提示する		



## シラバス

科目No	K-011	配当時期	1年次	講義担当者
科目名	教育学	単位数	1単位	須藤 文
		時間数	30時間(15回)	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
目的	人間の可能性を引き出すため教育の意義・方法を理解し、生涯教育や看護活動に役立てる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.3年間の学校生活の見通しを持ち、主体的に学ぶことができる。</li> <li>2.教育の意義、指導者としての役割と倫理を理解することができる。</li> <li>3.LTDを活用し、論理的な言語技術(聴く・話す・読む・書く)を磨くことができる。</li> <li>4.学習者として協力し合い、切磋琢磨しながら学ぶ必要性を理解することができる。</li> <li>5.学ぶ楽しさを体験的に経験し、生涯学び続ける礎を身に付けることができる。</li> </ol>			
DPとの関連	DP1 人間はさまざまな場面で教育を受け成長発達をすることを理解する。 DP2 人間は他者との相互作用を繰り返しながら成長し、互いに影響し合うことを理解する。 DP3 人間は誰でも教える立場になることを自覚し、指導に必要な能力を身につける。 DP7 成人学習者として主体的に学び、生涯学び続ける能力を身に付ける。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	授業目標を知り、15コマの見通しを持つことができる。	講義・グループワーク		
2	協同学習の理論と技法について理解できる。	講義・グループワーク	リフレクションシート	
3	教育学を学ぶ意義について考えることができる。	講義・グループワーク	学習プリント	
4	指導者の役割と倫理について理解できる。	講義・グループワーク	リフレクションシート	
5	LTDの概要を理解できる	講義・グループワーク	学習プリント	
6	分割型LTDを理解できる。	講義・グループワーク	リフレクションシート	
7	分割型LTDの体験①(step.4まで)	演習	学習プリント	
8	分割型LTDの体験②(step.5から)	演習	リフレクションシート	
9	LTDを活用し、討論の準備ができる。	講義・グループワーク	学習プリント	
10	LTDを活用した討論ができる。	演習	リフレクションシート	
11	マインドマップの作成の仕方について理解することができる。	講義・グループワーク	マインドマップ	
12	小論文作成に向けて、マインドマップを作成することができる。	演習	リフレクションシート	
13	LTDを活用し、小論文の構成を考えることができる。	講義・グループワーク	文章構成	
14	LTDを活用した小論文を書くことができる。	演習	小論文	
15	小論文を披露し合い、自分たちの変化成長を確かめることができる。	講義・グループワーク	リフレクションシート	
提出物は、すべて評価対象である。未提出の場合は、不合格とする。				
受講上の注意	予習・復習をしっかりと行うこと 積極的に仲間との対話を楽しんでほしい 授業は2回分ずつ隔週で実施する			評価方法 小論文 20% リフレクションシート 20% 提出課題 20% 授業関与度 40%
使用するテキスト	資料提示			
参考文献	『LTD話し合い学習法』 『看護のための教育学:第2版』			

## シラバス

科目No	K-012	配当時期	1年次	講義担当者	30時間(15回)
科目名	情報科学	単位数	1単位	担当者の実務経験	19年
		時間数	30時間(15回)		
科目全体のねらい・授業目標					
目的	医療の分野では情報化と情報の有効な利用が求められている。情報、医療情報とは何か、その特性、概念、意味を理解し、さらにそれらを支えている情報や情報技術について学んでいく。また Word、PowerPoint、Excelを用いて文書の作成やデータの集計やグラフ作成、発表資料の作成、統計的仮説検定等の基礎演習を行い、操作方法・基礎知識の習得を行う。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピューター、ネットワークの基礎について理解できる。</li> <li>2. 病院情報システムの機能について理解できる。</li> <li>3. 電子カルテなどの情報システムにおける多職種による連携と医療安全について理解する。</li> <li>4. 患者が情報に基づいて意思決定できる能力としてのヘルスリテラシーについて理解する。</li> <li>5. PCの基本操作について理解し、データ分析の基礎知識、統計的仮説検定について理解することができる。</li> <li>6. 資料の作成および発表を通して、効果的なプレゼンテーションについてリフレクションできる。</li> <li>7. 情報を扱ううえでの患者中心とした「守り方」としての情報倫理について理解する。</li> </ol>				
DPとの関連	DP3 カルテ開示などの普及するなか、情報の利便性と医療安全的視点から専門職としての適切な取り扱いが理解できる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	情報の定義と特徴、情報倫理、ルールについて理解できる。 (情報倫理、医療倫理、医療・看護における個人情報等)	講義			
2	医療情報システムを支える情報基盤技術(1) コンピュータの基礎知識	講義			
3	医療情報システムを支える情報基盤技術(2) ネットワークの基礎知識	講義			
4	病院情報システムの機能(1) 病院情報システムの概要とシステム連携等	講義			
5	病院情報システムの機能(2) 電子カルテシステムの機能、医療現場での様々な記録の種類等	講義			
6	病院情報システムの機能(3) 看護師が利用するシステム、臨床指標、医療安全等	講義			
7	研究デザイン、情報の管理と収集の方法、データの入力方法 (研究デザインの種類、文献検索、データ保存等)	講義・演習			
8	Wordの操作 演習(1) 基本操作、データ入力等	講義・演習			
9	Wordの操作 演習(2) 文書・問診票・レポートの作成等	講義・演習			
10	Excelの操作(1) 演習 データの計算処理、グラフ作成(1)	講義・演習			
11	Excelの操作(2) 統計的仮説検定(1) 統計(1) 統計基礎知識(代表値等)	講義・演習			
12	Excelの操作(3) 統計的仮説検定(2) 統計(2) 仮説検定の考え方、信頼区間	講義・演習			
13	Excelの操作(4) 統計的仮説検定(3) 統計(3) 対応のあるt検定、対応のないt検定、重回帰分析	講義・演習			
14	PowerPointの操作 演習 基本操作、発表資料の作成、発表等	講義・演習			
15	講義全体のまとめ	講義・演習			
教科書	よくわかる統計学 看護医療データ編(第3版)東京図書				
参考文献	系統看護学講座 別巻 情報科学(医学書院)				

## シラバス

科目No	K-013	配当時期	1年次	講義担当者	今井 竜也
科目名	倫理学	単位数	1単位	担当者の実務経験	年
時間数		時間数	30時間(15回)		
科目全体のねらい・授業目標					
目的	「倫理とは何か」を理解した上で、人の生死をめぐる問題、社会に関する問題、医療のあり方を考えられるようになること。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 倫理とは何か、倫理的にもの进行を考えるということはどういうことか、倫理を形作る価値観とは何かを理解できること。</li> <li>2 生命の始まりから終わりまでに、人はどのような倫理的問題と直面するのかを理解し、考えられるようになること。</li> <li>3 現代社会において、どのような形で倫理的問題が問われているのを知り、考えられるようになること。</li> <li>4 医療技術の発展が、どのような倫理的問題を生み出しているのかを理解し、考えられるようになること。</li> </ol>				
DPとの関連					
DP1 生命について考える					
DP2 グループワークを通して多様な価値観や考えを理解し、人間形成の基盤を養うことができる					
DP3 「生命の尊厳、生命の平等」について考え、倫理観を養う					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	「倫理」とは何か — 「倫理は私たちへの正しさの押し付け? お説教?」と思わず感じてしまう理由を理解できる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
2	倫理は何を問題にするのか — 私たちが信じている「価値観」や「正しさ」というものが、どこから来るのかを考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
3	人の生き方・価値観と倫理① — 「自己決定」、「自由」という価値観について理解できる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
4	人の生き方・価値観と倫理② — 「人間の尊厳」、「平等」という価値観について理解できる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
5	人が生まれることと倫理① — 生殖という自然のプロセスに、技術的に介入して良いのかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
6	人が生まれることと倫理② — 生まれようとしている生命を絶って良いのかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
7	人が老いることと倫理 — 人が年をとって高齢者になった時、直面する状況と問題を理解できる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
8	人が病むことと倫理 — 病む人を見る・護る専門職である看護師は、どうあるべきかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
9	人が死ぬことと倫理① — 死を迎えようとしている人に対するケアは、どうあるべきかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
10	人が死ぬことと倫理② — 人は自分の意思で死を選んで良いのかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
11	人・社会のあり方と倫理① — 社会から格差、貧困、不平等はなぜなくならないのかについて理解できる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
12	人・社会のあり方と倫理② — AIやロボットについて、人がそれをどのように利用し、共存していくべきかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
13	人・社会のあり方と倫理③ — 死刑という刑罰は、正しい刑罰なのかについて考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
14	医療技術・社会のあり方と倫理① — 臓器移植の現状を理解した上で、そのあり方を考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
15	医療技術・社会のあり方と倫理② — 遺伝子治療・遺伝子操作の現状を理解した上で、そのあり方を考えられる	講義	質疑応答・ミニッツペーパー		
<p>毎時間、扱う各トピックについて、「授業を聞いて初めて知ったこと」、「授業の中で最も重要だと思ったこと」、「授業を聞いて疑問に思ったこと」の3点をミニッツペーパーにまとめて提出してもらいます。評価基準は、① 授業をよく聞いていること、② 的確な質問をしていること、の2つです。</p>					
受講上の注意				評価方法	
授業では、皆さんに適宜質問をし、積極的な発言を求めます。受身的態度ではなく、問題意識を持って、集中して受講してください。				レポート 70% ミニッツペーパー 30%	
使用するテキスト					
特に指定しない。					
参考文献 文庫本・新書本を中心に、授業内で紹介する。					

## シラバス

科目No SK-001		配当時期		講義担当者	
人の身体のしくみと病気Ⅰ(血液・生体防御)		単位数	1単位	森本幸生	
		時間数	30時間	高木病院 医師	
				担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標					
目的 人体の構造と機能を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を実践するための基礎的知識を習得する。					
1.血液系の構造と機能について理解できる。					
目標 2.生体防御系の構造と機能について理解できる。					
3.血液系・生体防御系の主要な疾患の病態生理を理解し、身体的アセスメントができる。					
DPとの関連					
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解できる。					
DP4 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけることができる。					
DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。					
授業の流れ 人体の構造と機能と病気の結びつけができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める				テキストの種類・頁	
回	学習内容と成果	方法			
1	解剖生理学のため基礎知識	講義	森本	<解剖生理学> P8～54	
2	解剖生理学のため基礎知識	講義	森本		
3	解剖生理学のため基礎知識	講義	森本		
4	血液の構造と機能が理解できる	講義	森本	<解剖生理学> P126～P148	
5	血液の構造と機能が理解できる	講義	森本		
6	血液系疾患(貧血・白血病・多発性骨髄腫・凝固系疾患・造血器腫瘍)が理解できる	講義		<血液・造血器> ・貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤血球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血) ・白血球減少症 ・出血性疾患(血栓症血小板減少性紫斑病<TTP>、免疫性血小板現象性紫斑病<ITP>、播種性血管内凝固<DIC>) ・腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	
7	血液系疾患(貧血・白血病・多発性骨髄腫・凝固系疾患・造血器腫瘍)が理解できる	講義			
8	血液系疾患(悪性リンパ腫)が理解できる	講義			
9	血液系疾患(悪性リンパ腫)が理解できる	講義			
10	生体防御系の構造と機能が理解できる	講義	森本		
11	生体防御系の構造と機能が理解できる	講義	森本	<解剖生理学> P434～457	
12	自己免疫系疾患(膠原病・関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・全身性強皮症・多発性筋炎・皮膚筋炎・感染症)が理解できる	講義		<アレルギー、膠原病、感染症> ・自己免疫疾患(SLE、関節リウマチ、シェーグレン症候群、パーチェット病、全身性強皮症、多発性筋炎) ・アレルギー疾患(花粉症、蕁麻疹、接触皮膚炎、アナフィラキシーショック)	
13		講義			
14	自己免疫系疾患(膠原病・関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・全身性強皮症・多発性筋炎・皮膚筋炎・感染症)が理解できる	講義			
15	アレルギー疾患(アレルギー性疾患・アナフィラキシー)が理解できる	講義			
[看護師国家試験出題基準との関連] 必修問題 目標Ⅲ-10-A-f・g、目標Ⅲ-11-A 人体の構造と機能 7-A～C、9-A～B 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ-9-A、目標Ⅳ-10-A～C					
受講上の注意 学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また、治療論や病理学、成人看護学と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。				評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院					

シラバス

科目Nc SK-002 人の身体のしくみと病気Ⅱ (呼吸器・循環器)		配当時 1年生後期	講義担当者 森本幸生 高木病院医師 担当者の実務経験	
		単位数 1単位		
		時間数 30時間		
科目全体のねらい・授業目標				
目的 人体の構造と機能を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を実践するための基礎的知識を習得する。				
1. 呼吸器系の構造と機能について理解できる				
目標 2. 消化器系の構造と機能について理解できる				
3. 呼吸器系、消化器系の主要な疾患の病態生理を理解し、身体的アセスメントができる				
DPとの関連				
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している				
DP4 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている				
DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる				
授業の流れ		人体の構造と機能と病気の結び付けができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める。		
回	学習内容と成果	方法	テキストの種類・頁	
1	呼吸器の構造と機能が理解できる	講義	森本	
2	呼吸器の構造と機能が理解できる	講義	森本	
3	呼吸器の構造と機能が理解できる	講義	森本	
4	呼吸器疾患(肺炎、気管支喘息)が理解できる	講義	<解剖生理学>P96~125  <呼吸器> ・炎症性疾患(肺炎、気管支炎、間質性肺炎、胸膜炎) ・気管支喘息 ・COPDP ・肺循環障害(肺高血圧症、肺塞栓症) ・腫瘍(肺癌、中皮腫) ・気胸 ・肺結核	
5	呼吸器疾患(COPD、呼吸不全)が理解できる	講義		
6	呼吸器疾患(肺循環疾患、肺癌)が理解できる	講義		
7	呼吸器疾患(気胸、中脾腫)が理解できる	講義		
8	心臓の構造と機能が理解できる	講義		森本
9	心臓の構造と機能が理解できる	講義		森本
10	血管系の構造と機能が理解できる。	講義		森本
11	リンパ系と構造の機能が理解できる	講義	森本	
12	先天性心疾患の症状と治療が理解できる	講義	<解剖生理学> P150~208  <循環器> ・先天性心疾患(ASD、VSD、PDA、TOF) ・虚血性心疾患(狭心症、急性冠症候群) ・心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症) ・心不全(急性心不全、慢性心不全) ・不整脈(上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、除脈性不整脈) ・炎症性疾患(細菌性心内膜炎など) ・弁膜症(大動脈弁疾患、僧帽弁疾患) ・血管系の疾患(大動脈瘤、大動脈解離、ASO、深部静脈血栓症) ・血圧の異常(高血圧、低血圧、動脈硬化症)	
13	虚血性心疾患・不整脈の症状と治療が理解できる	講義		
14	心筋症・心不全の症状と治療が理解できる	講義		
15	血管系の疾患・血圧の異常の症状と治療が理解できる。	講義		
受講上の注意		評価方法		
学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また、治療論や病理学、成人看護学と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。		筆記試験 100点		
使用するテキスト				
系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ3 成人看護学 循環器 医学書院				
参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院				

## シラバス

科目No	SK-003	配当時期	講義担当者	
人の身体のしくみと病気Ⅲ (歯・口腔・消化器)		1年生後期	村田祐造 高木病院医師	
		単位数 1単位		
		時間数 30時間	担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標				
目的 人体の構造を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を実践するための基礎的知識を理解する。				
目標 1. 歯・口腔のしくみと病気が理解できる 2. 循環器のしくみと病気が理解できる				
DPとの関連				
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。				
授業の流れ 人体の構造と機能と病気の結びつけができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める。				
回	学習内容と成果	方法		テキストの種類・頁
1	歯・口腔の構造と機能が理解できる	講義	村田	<解剖生理学> P56～66
2	消化器の構造と機能①(食道～直腸・肛門)が理解できる	講義	村田	<解剖生理学>P66～93
3	消化器の構造と機能①(食道～直腸・肛門)が理解できる	講義	村田	
4	消化器の構造と機能②(肝臓・胆道系・膵臓)が理解できる	講義	村田	
5	消化器の構造と機能②(肝臓・胆道系・膵臓)が理解できる	講義	村田	
6	消化器の構造と機能②(肝臓・胆道系・膵臓)が理解できる	講義	村田	
7	齲歯・歯周病・口腔粘膜の疾患の症状と治療が理解できる。	講義		<歯・口腔> ・齲歯・歯周病・腫瘍(舌癌)・口唇口蓋裂
8	口腔領域の腫瘍について症状・治療が理解できる。	講義		
9	口腔領域の先天異常および顎関節・咀嚼筋の疾患の症状と治療が理解できる。	講義		
10	消化器疾患(食道疾患)が理解できる	講義		<消化器系> ・炎症性疾患(上部消化管:逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、下部消化管:潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻、肝・胆・膵系:肝炎、胆管円、胆嚢炎、膵炎) ・潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍) ・食道静脈瘤 ・腫瘍(上部消化管:食道癌、胃癌、下部消化管:大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌、肝・胆・膵系:肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌) ・イレウス ・慢性便秘症 ・脂肪肝、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎 ・胆石症 ・鼠径ヘルニア ・腹膜炎 ・横隔膜ヘルニア ・腹壁癒痕ヘルニア
11	消化器疾患(胃疾患)が理解できる	講義		
12	消化器疾患(大腸癌)が理解できる	講義		
13	消化器疾患(小腸疾患)が理解できる	講義		
14	消化器疾患(膵炎)が理解できる	講義		
15	消化器疾患(肝癌、肝硬変)が理解できる	講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅲ-10-A-h・i、目標Ⅲ-11-A 人体の構造と機能 10-A～C、11-A～B 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ-5-A、目標Ⅳ-7-B～E				
受講上の注意 学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また、治療論や病理学、成人看護学と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。人体の機能が障害されたらどうなるのか、結びつけて学習しよう。			評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ5 成人看護学 消化器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ15 成人看護学 歯・口腔 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学				
参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院				

## シラバス

科目No SK-004	配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数	講義担当者 村田 祐造 高木病院医師 担当者の実務経験		
人の身体のしくみと病気IV (脳神経・感覚器系)				
科目全体のねらい・授業目標 目的 人体の構造を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を実践するための基礎的知識を理解する。 目標 1. 脳神経系のしくみと病気が理解できる 2. 耳鼻咽喉科のしくみと病気が理解できる				
DPとの関連 1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。				
授業の流れ 人体の構造と機能と病気の結びつきができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める。				
回	学習内容と成果	方法	森本	テキストの種類・頁
1	神経細胞と神経組織、中枢神経系の構造と機能が理解できる	講義	森本	<解剖生理学> P359～392 P420～432
2	神経細胞と神経組織、中枢神経系の構造と機能が理解できる	講義	森本	
3	末梢神経系神経系の構造と機能が理解できる	講義	森本	
4	脳血管疾患、頭蓋内圧亢進症、変性疾患、脱髄疾患と症状と治療が理解できる	講義		<脳・神経> ・脳血管疾患(脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病) ・頭蓋内圧亢進症 ・変性疾患(パーキンソン病、ALS) ・脱髄疾患(多発性硬化症) ・認知症(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) ・感染症(脳炎、髄膜炎) ・てんかん ・頭部外傷 ・ギランバレー症候群 ・顔面神経麻痺 ・自律神経失調症
5	認知症、感染症(脳炎)頭部外傷、てんかんが理解できる。	講義		
6	ギランバレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺、自律神経失調症が理解できる	講義		
7	感覚器系(体性感覚、平衡感覚、内臓感覚)の解剖と機能が理解できる	講義	村田	<解剖生理学> P393～420
8	感覚器系(視覚)の解剖と機能が理解できる	講義	村田	
9	感覚器系(聴覚、味覚、嗅覚)の解剖と機能が理解できる	講義	村田	
10	視覚障害(白内障、緑内障)の症状と治療が理解できる	講義		<眼> ・白内障 ・緑内障 ・網膜剥離、網膜症
11	視覚障害(網膜剥離)の症状と治療が理解できる	講義		
12	聴覚障害(難聴)の症状と治療が理解できる。 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎)の症状と治療が理解できる。	講義		<耳鼻咽喉> ・難聴 ・メニエール病 ・味覚障害 ・嗅覚障害 ・咽頭炎 ・扁桃炎
13	聴覚障害(メニエール病)の症状と治療が理解できる	講義		
14	皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎)褥瘡の症状と治療が理解できる	講義		<皮膚> ・湿疹 ・皮膚炎(アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、光線過敏症) ・蕁麻疹 ・薬疹 ・感染性疾患(帯状疱疹、蜂窩織炎、疥癬、白癬) ・腫瘍(色素性母斑、クローン、癌)
15		講義		
必修問題 目標Ⅲ-10-A-b・d、目標Ⅲ-11-A 人体の構造と機能 3-A～C、5-A～G 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ-11-A～C				
受講上の注意 学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また、治療論や病理学、成人看護学と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。人体の機能が障害されたらどうなるのか。結びつけて学習しよう。			評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ7 成人看護学 脳・神経 系統看護学講座 専門分野Ⅱ13 成人看護学 眼 系統看護学講座 専門分野Ⅱ14 成人看護学 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門分野Ⅱ12 成人看護学 皮膚				
参考文献 系統看護学講座 専門分野 解剖生理学				

## シラバス

科目No SK-005 人の身体のしくみと病気V (筋骨格・内分泌・代謝)	配当時期 1年生後期  単位数 1単位  時間数 30時間	講義担当者 村田 祐造 森本 幸生 高木病院医師  担当者の実務経験		
科目全体のねらい・授業目標 目的 人体の構造と機能を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を实践するための基礎的知識を習得する。 目標 1. 筋骨格の構造と機能について理解できる 2. 内分泌・代謝器官の構造と機能について理解できる 3. 主要な疾患の病態生理を理解し、身体的アセスメントができる				
DPとの関連 DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している DP4 科学的な根拠に基づいた看護の实践に必要な臨床判断能力を身につけている DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の实践ができる				
授業の流れ 人体の構造と機能と病気の結び付けができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める				
回	学習内容と成果	方法	担当	テキストの種類・頁
1	筋骨格の構造と機能①(骨・関節)が理解できる	講義	村田	<解剖生理学> P282～355
2	筋骨格の構造と機能②(神経と筋肉)が理解できる	講義	村田	
3	運動器疾患(骨折)と症状と検査・治療が理解できる	講義		<運動期> ・骨折・脱臼・捻挫 ・骨粗鬆症 ・変形性関節症 ・腫瘍(骨肉腫、軟部組織腫瘍) ・腰痛症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) ・炎症性疾患(骨炎、骨髄炎、関節炎) ・脊髄損傷
4	運動器疾患(骨折)と症状と検査・治療が理解できる	講義		
5	運動器疾患(関節リウマチ)と症状が理解できる	講義		
6	運動器疾患(骨粗鬆症・関節炎)と症状が理解できる	講義		
7	内分泌器官の構造と機能①(視床下部、下垂体、甲状腺)が理解できる	講義	森本	<解剖生理学> P249～280 P30～35
8	内分泌器官の構造と機能②(副甲状腺、副腎、消化管・膵臓)が理解できる	講義	森本	
9	代謝の機能(消化・吸収、肝臓、筋肉)が理解できる	講義	森本	
10	内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患)が理解できる	講義		<内分泌・代謝> ○内分泌系 ・間脳、下垂体疾患 ・甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎) ・副甲状腺(上皮小体)疾患 ・副腎皮質・髄質疾患 ・腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌) ○代謝系 ・糖尿病 ・メタボリックシンドローム ・肥満症 ・脂質異常症 ・高尿酸血症、痛風 ・ビタミン欠乏症
11	内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患)が理解できる	講義		
12	内分泌疾患(副甲状腺疾患、副腎疾患)が理解できる	講義		
13	内分泌疾患(副甲状腺疾患、副腎疾患)が理解できる	講義		
14	代謝疾患(糖尿病)が理解できる	講義		
15	代謝疾患(糖尿病)が理解できる	講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅲ-10-A-c・j・l・m、目標Ⅲ-11-A 人体の構造と機能 4-A～C、14-A・B、15-A～C 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ-8-A～B、目標Ⅳ-12-A～B				
受講上の注意 学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また、治療論や病理学、成人看護学と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。人体の機能が障害されたらどうなるのか。結びつけて学習しよう。			評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院				



## シラバス

科目No SK-006 人の身体のしくみと病気VI(腎泌尿器・性生殖系)		配当時期 1年生 後期 単位数 1単位 時間数 30時間		講義担当者 村田祐造 高木病院医師 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標					
目的 人体の構造と機能を体系的に理解するとともに、主要な疾患について学び科学的に看護を実践するための基礎的知識を習得する。					
目標 1.腎泌尿器系の構造と機能について理解できる。					
目標 2.性生殖系系の構造と機能について理解できる。					
目標 3.腎泌尿器系・性生殖系系の主要な疾患の病態生理を理解し、身体的アセスメントができる。					
DPとの関連					
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解できる。					
DP4 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけることができる。					
DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。					
授業の流れ 人体の構造と機能と病気の結びつけができ、それに対する検査や治療に関する理解を深める				テキストの種類・頁	
回	学習内容と成果	方法			
1	腎泌尿器系の構造と機能が理解できる	講義	村田	<解剖生理学> P210～P237 P460～466	
2	腎泌尿器系の構造と機能が理解できる	講義	村田		
3	水分出納・脱水が理解できる。	講義	村田		
4	電解質異常・酸塩基平衡が理解できる。	講義	村田		
5	男性生殖系の構造と機能が理解できる	講義	村田		
6	腎臓系疾患(腎不全・ネフローゼ・炎症性疾患・腎血管性病変)が理解できる	講義		<腎・泌尿器> ・腎不全・ネフローゼ・腎炎・慢性腎臓病 ・炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎)・腎血管性病変 ・腎尿路結石・腫瘍(腎癌・尿管癌・膀胱癌) ・男性生殖系の疾患(前立腺炎、前立腺肥大症) ・排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症)	
7		講義			
8	泌尿器系疾患(感染症・尿路通過障害・腎尿路結石・腫瘍)が理解できる	講義			
9	男性生殖系の疾患(先天異常・前立腺疾患・尿路損傷・腫瘍)が理解できる	講義			
10	女性生殖系の構造と機能が理解できる	講義	村田		
11	女性生殖系の構造と機能が理解できる	講義	村田		
12	女性生殖系の疾患(子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣腫瘍・子宮体がん・子宮頸がん・卵巣がん)が理解できる	講義		<女性生殖器> ・女性生殖器疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫) ・腫瘍(乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌) ・乳腺の疾患(乳腺炎、乳腺症) ・生殖機能障害(月経異常、更年期障害)	
13	女性生殖系の疾患(子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣腫瘍・子宮体がん・子宮頸がん・卵巣がん)が理解できる	講義			
14	女性生殖系の疾患(子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣腫瘍・子宮体がん・子宮頸がん・卵巣がん)が理解できる	講義			
15	女性生殖系の疾患(不妊治療)が理解できる	講義			
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標III-10-A-k・n、目標III-11-A 人体の構造と機能 13-A～C、16-A～C 疾病の成り立ちと回復の促進 目標IV-13-A、目標IV-14-A					
受講上の注意			評価方法		
学習には常に疾患と症状の関連性を考えて学ぶ必要があります。また治療論や病理学、成人看護学等と関連して学び、積極的な予習・復習を通して自学自習の姿勢を持って取り組むことを求めます。			筆記試験 100点		
使用するテキスト					
系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院					
系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院					
参考文献					
系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院					

## シラバス

科目No	SK-007	配当時期	1年後期	講義担当者
	生化学	単位数	1単位	
		時間数	30時間	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
目的	生体を構成している物質は、常に代謝を繰り返している。物質やエネルギー代謝について理解し、生体の恒常性がどのように保たれているかを理解することにより生体を科学的に捉え、疾病による異常を理解する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する物質について理解することができる</li> <li>2. 生体内でおこる化学反応や物質代謝について理解することができる。</li> <li>3. 生体の恒常性がどのように保たれているかを理解することができる。</li> <li>4. 遺伝情報とその発現について理解することができる。</li> </ol>			
DPとの関連				
DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。				
DP4: 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	生化学を学ぶための基礎知識が理解できる 生命とは 細胞の構造と機能	講義		
2	代謝と生体のエネルギーの関係について理解することができる 栄養とエントロピー 三大栄養素の代謝	講義		
3	酵素の役割と特徴について理解することができる 酵素の構成 補因子 ビタミン	講義		
4	糖質の構造と機能を理解することができる 単糖、二糖、多糖の構造と機能	講義		
5	糖質の消化と吸収について理解することができる 血糖調節とインスリン、グルコースの分解、グリコーゲン代謝	講義		
6	脂質の構造と機能を理解することができる 脂質の種類	講義		
7	脂質の代謝について理解することができる 脂質の消化と吸収、分解合成 脂質代謝に関する遺伝性疾患	講義		
8	タンパク質の構造と機能について理解することができる アミノ酸、タンパク質の構造	講義		
9	ポルフィリン代謝と異物代謝について理解することができる	講義		
10	遺伝情報とその発現について理解することができる 遺伝子と核酸、染色体、核酸の構造と機能	講義		
11	遺伝子の複製・修復・組み換えについて理解することができる	講義		
12	遺伝子の転写について理解することができる	講義		
13	遺伝子の翻訳と翻訳後修飾について理解することができる 翻訳のメカニズム	講義		
14	細胞のシグナル伝達について理解することができる 伝達の概要、機序 内分泌の生化学的基盤	講義		
15	がん細胞の性質について理解することができる がん遺伝子 がん抑制遺伝子 染色体転座 がん薬物療法	講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】 人体の構造と機能 1-A～E、2-A～B、12-A～B				
受講上の注意			評価方法	筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎 生化学 医学書院				
参考文献				

## シラバス

科目No SK-008 栄養学概論	配当時期 単位数 時間数	1年次 1単位 15時間	講義担当者 沖田 卓雄 担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標			
ねらい	食物を摂取することによって得られた栄養素が人体に及ぼす影響と役割を理解する。看護における栄養食事療法の役割を学ぶため、栄養学の基礎知識を理解し、人にとっての食事の意義を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素と体内のはたらき(臨床栄養)、栄養食事療法の役割を理解する。</li> <li>2. 栄養学と看護の関係について理解する。</li> <li>3. 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解する。</li> <li>4. 各ライフステージにおける栄養の重要性を理解する。</li> </ol>		
DPとの関連			
DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。			
DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。			
DP4:科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。			
DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	人にとっての食事の意義について理解できる。	講義	
2	栄養素の種類とはたらきについて理解できる。	講義	
3	食物の消化と栄養素の吸収について理解できる。	講義	
4	栄養素の代謝・代謝産物と排泄について理解できる。	講義	
5	エネルギー代謝について理解できる。	講義	
6	食事の摂取基準と食品成分表における食品の分類が理解できる。	講義	
7	ライフステージと栄養(乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人各期)について理解できる。	講義・GW	
8	ライフステージと栄養(妊娠期・授乳期・更年期・高齢期)について理解できる。	講義・GW	
【看護師国家試験出題基準との関連】 人体の構造と機能 12-A～B			
※講義内容を確認し、事前に予習をすること。また、教科書の各ゼミナールを活用し、講義内容の理解につなげてほしい。		評価方法	
※学生自身の日常における食事への関心と、自身の健康的な食生活ができるよう自己管理を行うこと。その上で看護における食事の役割や指導方法などを学んでほしい。		筆記試験 出席状況 受講態度 課題提出	
受講上の注意			
講義で不明な点などは積極的に質問をする。また、予習・復習をする。			
使用するテキスト			
系看 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学<医学書院>			
参考文献			

## シラバス

科目No SK-009 栄養療法	配当時期 単位数 時間数	1年次 1単位 15時間	講義担当者 沖田 卓雄 担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標			
<p>ねらい 臨床栄養学の基礎的知識を栄養学概論での知識をふまえ、対象の健康段階に応じた食事指導のための基礎知識を理解する。さらに、各ライフステージにおける生活習慣病予防のための栄養ケア・マネジメントなどについて医療と保健活動の分類において他の専門職と連携して、栄養面からアプローチする。また、人間の健康の保持増進に役立てる能力を養う。</p> <p>目標 1. 栄養状態の査定および評価について理解し、栄養ケア・マネジメントについて理解する。 2. 健康障害に対する食事療法について理解する。 3. 臨床栄養としての食事療法の実践方法について理解する。 4. 地域の対象者の健康づくり、食生活指導について理解する。</p>			
DPとの関連			
DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。			
DP4:科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。			
DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。			
DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	栄養ケア・マネジメントについて理解できる。(栄養状態のアセスメントとNST)	講義	
2	病人食の特徴と種類、栄養食事療法について理解できる。	講義	
3	循環器系疾患の食事療法について理解できる。	講義	
4	代謝系疾患の食事療法について理解できる。	講義	
5	消化器系疾患の食事療法について理解できる。	講義	
6	機能障害を伴う疾患の食事療法について理解できる。	講義	
7	調理実習(疾患に応じた食事療法)	演習	
8			
【看護師国家試験出題基準との関連】 人体の構造と機能 12-A～B			
※疾患患者への栄養管理について学習を行うため、予習として解剖学、疾患学習をしてから講義に臨んでほしい。			評価方法 筆記試験 出席状況 受講態度 課題提出
<p>受講上の注意</p> <p>講義で不明な点などは積極的に質問をする。また、予習・復習をする。 ※講義内容を確認し、事前に予習をすること。また、教科書の各ゼミナールを活用し、講義内容の理解につなげてほしい。</p>			
<p>使用するテキスト</p> <p>系看 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学&lt;医学書院&gt;</p>			
参考文献			

## シラバス

科目No	SK-010	配当時期	1年次	講義担当者
	薬理学概論	単位数	1単位	藤戸 博
		時間数	15時間(8回)	担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
ねらい:	薬物の薬理作用と人体に及ぼす影響について理解し、高度化した医療における薬物療法の基本を学ぶ。 薬物療法におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、薬物の作用を十分に引き出すとともに、医療事故防止に寄与するための知識を学ぶ。			
目標:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の薬理作用と人体への作用・副作用を理解する。</li> <li>2. 薬物療法におけるチーム医療の重要性、その中での看護師の役割を理解する。</li> <li>3. 医薬品関連の法規を理解し、医療事故防止について考えることができる。</li> </ol>			
DPとの関連				
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。			
DP4	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断をすることができる。			
DP5	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践することができる。			
DP6	保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種との役割を理解し、多職種との連携協働しながら多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。			
DP7	専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続けることができる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物とは何かを述べることができる。</li> <li>2. 薬理学とは何かを述べることができる。</li> </ol>	講義		
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬が作用するしくみ(薬力学)を述べることができる。</li> <li>2. 薬の体内挙動(薬物動態学)を述べることができる。</li> </ol>	講義		
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物相互作用について、例を挙げて述べるができる。</li> </ol>	講義		
4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬効の個人差に影響を与える因子(年齢、性、妊娠、遺伝子など)について述べるができる。</li> </ol>	講義		
5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物使用の有益性と危険性について例を挙げて述べるができる。</li> <li>2. 薬物中毒について、例を挙げて述べるができる。</li> </ol>	講義		
6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品に関する法律とそれに則った医薬品の取り扱い(管理)について述べるができる。</li> <li>2. 処方箋の記載事項について述べるができる。</li> <li>3. 添付文書の見方が分かる。</li> </ol>	講義		
7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗感染症薬の作用様式と適応疾患が述べられる。</li> <li>2. 院内感染対策における薬物の効果について述べるができる。</li> </ol>	講義		
8	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法におけるチーム医療の重要性を述べられる。</li> <li>2. 薬物療法における看護師の役割を述べることができる。</li> <li>3. まとめ</li> </ol>	講義・グループワーク		
【看護師国家試験出題基準との関連】				
必修問題 目標Ⅲ-12-A～B				
受講上の注意			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連科目(特に人のしくみと病気、微生物学、病理学)の復習を行いながら参加すること。</li> <li>2. 看護師として、薬物療法にどのようにかわるのか、看護技術の習得とともに積極的に参加してほしい。</li> </ol>			テスト	80%
			小テスト	15%
			レポート	5%
使用するテキスト				
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(3)薬理学:医学書院				
参考文献				
コメディカルのための薬理学:朝倉書店				

## シラバス

科目No	SK-012	配当時期	1年前期	講義担当者	戸田修二
科目名	病理学総論	単位数	1単位	実務経験年数	
		時間数	15時間		
科目全体のねらい・授業目標					
ねらい 臨床医学全般について疾病の原因や発生、進展、転帰を細胞、組織、臓器の変化として捉え、看護学実践の基礎的能力を養う。					
目標					
1. 疾病の原因や発生のメカニズムが理解できる。 2. 各器官系統での障害とその症状が理解できる。					
DPとの関連					
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 4. 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	病理学とは何かが理解できる。 (循環障害・細胞と組織の障害・感染症)	講義・ポストテスト	資料		
2	病理学とは何かが理解できる。 (腫瘍・先天異常と遺伝子異常・老化と死)	講義・ポストテスト	資料		
3	皮膚・体温調節・体液調整・免疫の障害について理解できる	講義・ポストテスト	資料		
4	血液と循環と呼吸の障害について理解できる	講義・ポストテスト	資料		
5	消化・吸収の障害が理解できる	講義・ポストテスト	資料		
6	腎・泌尿器の障害が理解できる	講義・ポストテスト	資料		
7	内分泌・代謝、生殖の障害が理解できる	講義・ポストテスト	資料		
8	脳・神経、筋肉、感覚器の障害が理解できる	講義・ポストテスト	資料		
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅲ-11-B-a・b・c 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅱ-3-A～C					
受講上の注意 人の体としくみと病気の学習と関連性を考える。				評価方法 試験 100点	
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学					
参考文献					

## シラバス

科目No	SK-013	配当時期	1年次	講義担当者
科目名	微生物学	単位数	1単位	北垣浩志
		時間数	30時間	実務経験年数
科目全体のねらい・授業目標				
1.微生物および病原微生物について学び、体内に進入したあと体内でどのような反応や現象が起こるか理解できる。				
2.感染と免疫について学び、感染症と人間社会との関係・安全や感染予防について理解するための基盤とする。				
DPとの関連	1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 4. 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法		
1	微生物学とは何か。微生物と人との関係性について理解できる。	講義	ポストテスト	資料
2	細菌の性質が理解できる	講義	ポストテスト	資料
3	真菌、原虫、ウイルスの特徴が理解できる	講義	ポストテスト	資料
4	微生物の感染機構が理解できる	講義	ポストテスト	資料
5	感染に対する生体反応が理解できる	講義	ポストテスト	
6	感染源と感染経路が理解できる	講義	ポストテスト	
7	感染症対策について理解できる	講義	ポストテスト	資料
8	感染症の診断と治療について理解できる	講義	ポストテスト	
9	主な感染予防法とその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
10	主な病原微生物とその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
11	主な病原微生物とその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
12	主なワクチンとその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
13	主なワクチンとその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
14	主な感染検査法とその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	
15	主な感染検査法とその特徴が理解できる	講義	ポストテスト	資料
【看護師国家試験出題基準との関連】 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅱ-3-C				
受講上の注意			評価方法 試験 100点	
使用するテキスト 医学書院 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進4				
参考文献				

## シラバス

科目No SK-017	地域保健学	配当時期 1年次後期	講義担当者 松永 里香 担当者の実務経験 行政保健師 8年
		単位数 2単位	
		時間数 30時間	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>地域で生活する人びとの健康・生活および健康問題や課題を地域社会の特性と公衆衛生と関連づけながら捉え、支援するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する個人・家族・特定集団・コミュニティについて、その特性と支援の基本的な考え方について理解する。</li> <li>2. 地域を基盤とした健康増進・疾病予防の考え方の基本を理解する。</li> <li>3. 地域で生活する人びとが抱える健康問題と課題について理解する。</li> <li>4. 地域で生活する人びとの健康支援のための法律・政策、事業などの構成を知り、看護職の活動と協働について理解できる。</li> </ol>			
DPとの関連			
<p>DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関する看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。</p> <p>DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人びとへの看護が理解できる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	地域で生活する看護の対象を理解する	講義	
2	地域生活する人々のライフステージの特徴と発達課題について理解する	グループワーク	事前学習課題①
3	公衆衛生看護の理念や定義を理解する	講義	
4	ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケアについて理解する	グループワーク	事前学習課題②
5	疫学・保健統計から地域で生活する人々の健康を捉える	講義	
6	健康に影響する社会的・環境的要因を理解する	グループワーク	(模造紙・ペン・ポストイット)
7	地域で生活する人々への保健活動の場と特徴について理解する	講義	
8	地域を診ることを理解する	講義	事前学習課題③
9	地域で生活する人々の健康支援・保健活動を理解する① (母子・成人・高齢者)	講義	
10	地域で生活する人々の健康支援・保健活動を理解する② (感染症)	講義	事前学習課題④
11	SDGsと地域公衆衛生活動について考える① SDGsとは何かを調べ、公衆衛生上の看護活動について考える	講義	
12	SDGsと地域公衆衛生活動について考える② 地域で何が行われているかを知り、自分たちにできることを考える	グループワーク	(模造紙・ペン・ポストイット)
13	SDGsと地域公衆衛生活動について考える③ 自分たちの考えたSDGsを発表する	発表	
14	地域で生活する人々の健康支援・保健活動を理解する③ (学校・産業保健)	講義	
15	地域で生活する人々への健康支援・保健活動を理解する④ (災害) 地域保健学のまとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標Ⅰ-1-A～C、目標Ⅰ-2-A～C 健康支援と社会保障制度 目標Ⅲ-7-A～C、目標Ⅲ-8-A～B、目標Ⅲ-9-A～D、目標Ⅲ-10-A～E、目標Ⅲ-11-A～B			
<p>受講上の注意</p> <p>事前学習課題①プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて調べてくる</p> <p>事前学習課題②健康度マップを作成する</p> <p>事前学習課題③地域の保健活動について調べてくる</p> <p>事前学習課題④SDGsとは何か、全国の取り組みについて調べてくる。</p> <p>グループワークには各自資料など集め、主体的に参加する。</p> <p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 (医学書院)</p> <p>参考文献</p> <p>第3版 公衆衛生看護学(中央法規)</p> <p>保健学講座 公衆衛生看護学概論(メヂカルフレンド社)</p>			<p>評価方法</p> <p>筆記試験 50%</p> <p>学習課題(レポート) 50%</p> <p>グループワークへの取り組み</p>



科目No-SN001 看護学概論		配当時期 1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 前島文子 担当者の実務経験 看護師としての臨床経験11年 看護養成校教員経験25年
科目全体のねらい・授業目標 看護学の初学者として、看護が人間の健康や環境、生活にかかわっていることを理解する。また、看護とは何か、看護を支える主要な考え方、看護者の役割について学ぶ。 1. 看護の歴史的な変遷をたどりながら、看護のおかれている状況やその課題について説明することができる。 2. 看護の対象を人間・健康・環境・生活の視点から理解することの意味を述べることができる。 3. 看護学についての主要な考え方や、人々の健康にかかわる看護職の活動について説明することができる。 4. 看護学における倫理の考え方や実践における倫理の重要性について述べるすることができる。 5. 保健医療福祉分野の連携のなかで、看護の独自性や役割について、自らの意見を述べるすることができる。			
DPとの関連 1. 身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 2. 人間尊重を基盤にして誠実な態度で人間形成をすることができる。 3. 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。 4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。 6. 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。 7. 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性和方法を理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護の概念 看護の定義・機能・役割、看護の概念をふまえて看護とは何かを学習する	講義 グループワーク	教科書 資料
2	看護の変遷Ⅰ 看護の変遷をたどりながら看護とは何かを学習する	講義	教科書 資料
3	看護の変遷Ⅱ アメリカの看護・日本における近代看護、第二次世界大戦後の日本の看護・公衆衛生看護の発展を学習する。	講義	教科書 資料
4	看護の対象としての人を理解する。	講義 グループワーク	教科書 資料
5	看護についての主要な考え方や概念について理解する。 (看護実践を支える知識と技術の統合 ニード論)	講義 グループワーク	教科書 資料
6	看護についての主要な考え方や概念について理解する。 (看護実践を支える知識と技術の統合 看護に有用な理論や概念)	講義 グループワーク	教科書 資料
7	看護活動の行われる場の特性について理解する。 (病院や施設、地域、保育所、学校、産業など)	講義 グループワーク	教科書 資料
8	人間の健康にかかわる看護職の活動について理解する。 (看護の機能 看護の活動の実際)	講義 グループワーク	教科書 資料
9	看護の提供者について理解する。 (職業としての看護 看護職の資格・養成制度・就業状況 キャリア開発)	講義	教科書 資料
10	看護の提供のしくみについて理解する。 (地域包括ケアシステム 在宅ケアにおける看護マネジメント)	講義 グループワーク	教科書 資料
11	看護学における倫理の考え方と位置づけについて理解する。 (現代医療・看護と倫理 現代医療におけるさまざまな倫理的課題と取り組み)	講義 グループワーク	教科書 資料
12	衛生法規のなかでの看護にかかわる法規について理解する。 (保健師助産師看護師法)	講義	教科書 資料
13	保健医療福祉サービスのなかでの看護職の機能と役割について理解する。 (専門職とは 看護職と保健医療福祉との連携、多職種連携・保健医療福祉チーム)	講義 グループワーク	教科書 資料
14	看護学の動向と課題 育、看護の現状をふまえて社会の変化とこれからの看護を考える	看護教 講義 グループワーク	教科書 資料
15	本授業のまとめ	講義	教科書 資料
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修目標Ⅰ-4-A～C、目標Ⅰ-5-A～B、目標Ⅱ-6-A・B、9-A～B 健康支援と社会保障制度 目標Ⅳ-12-A～C 基礎看護学 目標Ⅰ-1-A～D			
受講上の注意 テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 社会の動向に関心を持ち、自分の考えを伝えることができる方法を見つける			評価方法 筆記試験・課題レポート
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院  参考文献 ナイチンゲールの「看護覚書」 西東社 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

## シラバス

科目No SN-002 看護理論	配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 前島文子 担当者の実務経験 看護師としての臨床経験11年 看護養成校教員経験25年	
科目全体のねらい・授業目標 看護理論は看護実践を記述し、説明し、結果を予測することができることを理解する 1. 看護学とは何かを再認識し、看護学の中で看護理論がどのように位置づけられているかを説明できる 2. 看護理論を構成する要素と理論の種類について説明できる 3. 看護理論を実践に活かすことを考え、看護理論の評価方法や実践に適用するプロセスを説明できる			
DPとの関連 1. 身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 2. 人間尊重を基盤にして誠実な態度で人間形成をすることができる。 3. 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。 4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。 6. 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。 7. 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護学と看護理論の関係について理解できる。	講義	教科書 資料
2	看護理論を実践にする意義と活用方法が理解できる。	講義	教科書 資料
3	看護理論21の理解と実践への応用:①フローレンス・ナイチンゲール	講義 グループワーク 発表	教科書 資料
4	②ヴァージニアA.ヘンダーソン ③アーネステイン・ウィーデンバック		教科書 資料
5	④ヒルデガルドE.ペプロウ ⑤マーサE.ロジャーズ ⑥ドロセアE.オレム		教科書 資料
6	⑦ドロシーE.ジョンソン ⑧マイラE.レヴァイン ⑨フェイG.アブデラ		教科書 資料
7	⑩アイモジンM.キング ⑪アイダJ.オーランド ⑫ジョイス・トラベルビー	講義・グループワーク	教科書 資料
8	⑬マドレーヌM.レイニンガー ⑭マーガレット・ニューマン	講義	教科書 資料
6	⑮シスター・カタリス・ロイ ⑯マールH.ミッセル		
7	⑰ローズマリー・リン・パーズィ ⑱ジーン・ワトソン ⑲ノラJ.ペンダー		
8	⑳パトリシア・ベナー ㉑キャサリン・コルカバ		
【看護師国家試験出題基準との関連】			
基礎看護学 目標 I-1-A～C			
受講上の注意		評価方法	
テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。		筆記試験 100点	
看護理論の文献を熟読しエビデンスのある意見が言えるように学習する			
自ら文献検索ができるようにする			
使用するテキスト			
看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版 南江堂			
系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学① 医学書院			
参考文献			
看護理論集 第3版 日本看護協会出版会			

## シラバス

科目No	SN-003	配当時期	1年次	講義担当者 前島文子
科目名	看護倫理	単位数	1単位	担当者の実務経験 看護師としての臨床経験11年 看護養成校教員経験25年
		時間数	30時間	
科目全体のねらい・授業目標				
この科目では、基礎分野で学んだ倫理学を基に今回は看護倫理のアプローチの方法について理解を深める内容とする。				
DPとの関連	2. 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。 3. 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法		備考
1	イントロダクション 倫理学で学んだ知識を振り返る	講義	ポストテスト	教科書1 資料
2	看護の倫理原則について、定義と看護における意味を理解する	看護の倫理綱領を読んでみる。		
3	「看護者の倫理綱領」を理解する	講義・演習		教科書1
4	看護実践における倫理的概念を理解する。看護倫理の歴史と看護の倫理原則について理解できる。	講義・演習		教科書1
5	看護実践における倫理的概念を理解する。看護実践上の倫理的概念が理解できる。アドボカシー、責務、協力、ケアリング	講義・演習		教科書1
6	専門職の倫理 保健師助産師看護師法と倫理、看護業務実践と倫理実践について理解する。	講義・演習		教科書1
7	倫理的問題に対するアプローチ方法について学ぶ 事例について枠組みに沿って、様々な視点から議論することができる	講義・演習		教科書1
8	基礎看護学実習Ⅱの受け持ち対象者を介して看護倫理について考える。	演習		教科書1
9	・看護実践における倫理的問題の特徴が理解できる ・倫理的な問題を議論するための基本的なルールが理解できる ・倫理的問題へのアプローチ法の理解	演習		教科書1
10	・Johnsonらの症例検討sheetを用いた方法の理解 ・トンプソン&トンプソンのための10ステップモデル			教科書1
11	・サラ・フライの看護実践における倫理的分析と意思決定のためのモデル			教科書1
12	・ナラティヴ・アプローチ ・レストによる道徳的行動の4要素モデル			教科書1
13				教科書1
14				教科書1
15				
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修目標 I-4-A～C、目標 I-5-A 基礎看護学 目標 I-D				
受講上の注意				評価方法 課題提出 40点 筆記試験 60点
使用するテキスト 1. 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
参考文献 1. 看護学テキストNice 看護倫理 よい看護、良い看護師への道しるべ 2. 看護倫理綱領 日本看護協会				

## シラバス

科目No	SN-004	配当時期	1年前期	講義担当者	田中雅美
科目名	看護とコミュニケーション	単位数	1単位	担当者の実務経験	看護師としての臨床経験16年 看護養成校教員経験11年
科目全体のねらい・授業目標					
この科目では、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解して、基本的な方法について学び、看護実践力に結びつけることができる。また、コミュニケーション障害のある対象の特徴と効果的な対応とは何かについて考える機会とする。					
DPとの関連 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解することができる。</li> <li>2. 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。</li> <li>3. 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。</li> </ol>					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	イントロダクション コミュニケーションの意義と目的、看護におけるコミュニケーションについて理解できる。	講義			
2	コミュニケーションの構成要素と成立過程について理解できる。	講義			
3	人間関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる。	講義			
4	接近的行動の前提となる基本的な態度について理解できる。 リフレクションとその意義について理解できる。	講義			
5	接近的行動が実践できる。 ①自己紹介 ②外見・身だしなみ ③表情 ④相手との距離 ⑥姿勢 ⑦ジャスチャー ⑧スキンシップ ⑨テリトリー ⑩におい ⑪声による表現	演習	リフレクションシート		
6	効果的なコミュニケーションの実際が理解できる。	講義			
7	傾聴の技術を実践できる。	演習	リフレクションシート		
8					
9	アサーティブネス アサーティブ行動が実践できる。	演習	リフレクションシート		
10	必要な情報を得るための技術について理解できる。	講義			
11	情報を得るための基本的技術が実践できる。	演習	リフレクションシート		
12	応答能力高めるためにプロセスレコードを活用する方法が理解できる。	講義・演習			
13	プロセスレコード検討会と振り返り	演習	リフレクションシート		
14					
15	コミュニケーション障害への対応について理解できる	講義			
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修目標 I-4-A～C、目標IV-13-A 基礎看護学 目標 I-1-B・D、目標 I-2-A、 基礎看護学 目標 II-3-A					
受講上の注意				評価方法	
事前学習課題に取り組み、講義・演習には積極的に参加すること。				終講試験:70点 課題提出状況および受講態度:30点	
使用するテキスト					
系看 基礎看護技術 I					
参考文献					
仲間と磨く看護のコミュニケーション・センス					

## シラバス

科目No SN-005 看護技術 I (日常生活援助)	配当時期 単位数 時間数	通年 2単位 60時間	講義担当者 安徳 秀子 担当者の実務経験 看護師としての臨床経験6年・看護養成校教員経験22年・介護養成校教員歴6年
科目全体のねらい・授業目標 1 看護技術とは何か、適切に実践するための要素について理解する 2 看護技術の基本原則である安全・安楽を確保することの重要性を理解する 3 日常生活を整える意義や環境を調整できる技術・身体能力の活用について実践を通して学ぶ 4 健康上のニーズを充足するために必要な、日常生活行動における看護技術について学ぶ 5 基本的な援助方法が科学的根拠に基づき、安全・安楽に援助できる方法を身につける			
DPとの関連 DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3: 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。 DP4: 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。 DP7: 専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	演習到達度
1・2	<b>【看護技術 I を学ぶためのイントロダクション】</b> 1. 看護技術を学ぶにあたって 1) 技術とはなにか 2) 看護技術の特徴・範囲・実践するための要素 3) 看護技術の発展と修得 2. 看護技術の根底をなすもの 1) 看護技術の基盤	講義	
3・4	3. 感染防止の技術 1) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 2) 医療事故(針刺し防止策) 3) 感染管理 <b>*演習:</b> スタンダードプリコーション <b>*成果:</b> 感染予防の意義を理解し、感染予防のための援助方法が実践できる	講義・演習	I
5・6	4-1. 活動・休息援助技術 1) 基本的活動とは(ボディメカニクスとは) 2) 体位・移動の技術 3) 睡眠と休息とは(睡眠と休息のアセスメント)	講義	I
7	5. 環境調整技術 1) 療養環境とそのアセスメント 2) 病床を整えるとは	講義	I
8・9	<b>*演習1:</b> ベッド周囲の環境整備(環境整備の方法) <b>*演習2:</b> クローズドベッド作成、オープンベッド作成、人が臥床中のシーツ交換 <b>*成果:</b> ①療養環境について理解することができる。 ②療養環境を整えることができる(ベッドメイキング) ③臥床患者のいるベッドメイキングができる。 ④療養環境を整える技術を評価することができる。	演習	I
10～12	4-2. 活動・休息援助技術 <b>*演習1:</b> 体位変換の実際の方法が理解できる。 水平移動、上方移動、仰臥位から側臥位、側臥位から端座位から立位 杖歩行の援助・車椅子・ストレッチャーを用いる場合の援助 <b>*演習2:</b> 基礎的肢位と移動の援助ができる。 体位変換・歩行・移乗・移送・ストレッチャー移送 <b>*成果:</b> 安全を確保する技術について理解することができる	演習	I

回	学習内容と成果	方法	演習到達度
13	6. 排泄援助技術 1) 排泄の意義とメカニズム・排泄のアセスメント 2) 自然排尿と自然排便の介助の実際 3) 排便を促す援助(グリセリン浣腸・摘便)	講義	I
14～16	<b>*演習1:</b> 床上排泄の援助 <b>*演習2:</b> おむつ交換 <b>*演習3:</b> PTイレ使用方法(※デモストのみ) <b>*演習4:</b> グリセリン浣腸 <b>*成果:</b> ①排泄の意義、メカニズムについて理解し、排泄のアセスメントすることができる。 ②自然排泄のための援助ができる(床上排泄、おむつ交換、PTイレ使用方法) ③排便を促すための援助ができる(浣腸、摘便) ④陰部洗浄の実際ができる。	演習	I
17・18	7. 清潔・衣生活援助技術 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔・寝衣交換の援助技術	講義	I
19～25	<b>*演習1:</b> 寝衣交換 <b>*演習2:</b> 手浴(床上) <b>*演習3:</b> 足浴とフットケア <b>*演習4:</b> 洗髪 <b>*演習5:</b> 全身清拭 <b>*演習6:</b> 寝衣交換(点滴滴下中の対象、かぶり式パジャマ) <b>*演習7:</b> 入浴・シャワー浴 ※DVD視聴のみ <b>*成果:</b> 清潔援助を実践するために必要な援助の効果、状態に応じた援助の方法を選択することができる。	演習	I
26	8. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 <b>*演習:</b> ポジショニング、巻法(温巻法、冷巻法) <b>*成果:</b> 苦痛の緩和・安楽の緩和の援助ができる	講義・演習	I
27	9. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 2) 摂食・嚥下障害と訓練 3) 非経口的栄養摂取について	講義	I
28～30	<b>*演習1:</b> 臥床患者の食事介助・口腔ケア <b>*成果:</b> ①食事と栄養に関する基礎知識をもとに、栄養のアセスメントの方法を理解できる。 <b>*成果:</b> ②食事・栄養に関する援助の実際ができる。(食事介助) ③口腔ケアの実際ができる。 ※経管栄養については老年看護学で学習	演習	I

卒業時の到達レベル(演習) I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。 II:モデル人形もしくは学生間で指導のもと実施できる。

【看護師国家試験出題基準との関連】

必修目標IV-14-A、B、C、D・必修目標IV-15-A、C・基礎看護学 目標II-3-F・H、4-A～F

受講上の注意 講義3回目より講義後に技術演習が始まるため、学習内容3.～9.については、事前にレポート作成を行う。レポートについては講義前までに提出し押印を受けておくこと。レポート作成の詳細は1回目の講義で説明をする。	評価方法 筆記試験 技術試験	100点 100点
--	----------------------	--------------

使用するテキスト 系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ・Ⅱ 医学書院 参考文献 看護技術プラクティス【第4版】学研メディカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社
--

## シラバス

科目No	SN-007 フィジカルアセスメント	配当時期	1年次	講義担当者
		単位数	1単位	七種 彩子
		時間数	30 時間	担当者の実務経験 看護師としての臨床経験11年 看護養成校教員経験3年
科目全体のねらい・授業目標				
ねらい	看護過程の基礎となる、看護の対象者の健康状態を把握するために必要なヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントの技術を習得する。			
目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を理解できる。 2. バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理面のアセスメントの実践が理解できる。 3. 系統別アセスメントを適切な方法や道具を用いて実施できる。また、得られた結果を援助に結びつけることの必要が理解できる。			
DPとの関連				
DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。				
DP4:科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。				
DP7:看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要と方法を理解できる。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	演習到達レベル	
1	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる。	講義		
2	健康歴とセルフケア能力の情報収集を行いアセスメントができる。	講義・演習	I	
3	フィジカルアセスメントによる全身状態の把握とバイタルサイン測定の概要を理解することができる。	講義		
4	身体計測とバイタルサイン測定の実際	演習	I	
5	身体計測とバイタルサイン測定の実際	演習	I	
6	呼吸器系、循環器系のアセスメントの内容を理解することができる	講義		
7	呼吸器系、循環器系のアセスメントが実施できる	演習	I	
8	腹部、乳房・腋窩のアセスメントの内容が理解できる	講義		
9	腹部、乳房・腋窩のアセスメントが実施できる	演習	I	
10	神経系、筋・骨格系のアセスメントの内容が理解できる	講義		
11	神経系、筋・骨格系のアセスメントが実施できる	演習	I	
12	皮膚・爪・頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口)アセスメントの内容を理解することができる	講義・演習	I	
13・14	成果:各系統別について視診、触診、聴診、打診を用いてアセスメントを行い、正常・異常が判断できる	演習		
15	技術チェック			
卒業時の到達レベル(演習) I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。 II:モデル人形もしくは学生間で指導のもと実施できる。				評価方法
【看護師国家試験出題基準との関連】				筆記試験
必修目標IV-13-C				
人体の構造と機能 大項目3~17				
基礎看護学 目標II-3-E				
受講上の注意				
フィジカルアセスメントの技術に関しては、各項目演習終了後に自己研修等の時間を使って練習を行うこと。				
※講義内容を確認し、ナーシングスキル等で事前に予習をすること。演習・課題には積極的に取り組み講義内容の理解につなげてほしい。 ※学生自身が自分自身の体に関心を持ち、講義時間以外にも視診、触診、聴診、打診法を用い、アセスメント技術を高めてほしい。				
使用するテキスト				
基礎看護技術 I 医学書院				
参考文献				
解剖生理学 医学書院				

## シラバス

科目No SN-008 看護過程と臨床判断能力 I	配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 田中雅美 担当者の実務経験 看護師としての臨床経験16年 看護養成校教員経験11年	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>1.看護実践における臨床判断能力の基礎的知識を理解することができる。</p> <p>2.看護実践における『気づく』ことの大切さを体験し、その重要性について理解することができる。</p> <p>3.看護実践における『観察』とは何かを考え、『気づき』と『観察』の関連性について理解することができる。</p> <p>4.『気づき』と『観察』の実際から、看護における主体的な学習方法について学ぶことができる。</p>			
DPとの関連			
<p>DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。</p> <p>DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。</p> <p>DP7 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要と方法を理解できる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護実践における『気づく』ことの重要性を理解できる。 (臨床判断能力とは何か)	講義・LTD	リフレクションシート
2	『気づき』の体験を通して、関心をもって観る楽しさを理解する。	講義・演習	リフレクションシート
3	看護における『観察』とは何かを理解し、『気づき』との関連性について考えることができる。 (気づきと観察)	講義・LTD	リフレクションシート
4	『観察』の実際を体験し、学びを共有することができる。	講義・演習	リフレクションシート
5	『気づき』から『立ち止まり』考えることができる。 (気づきと知識の関連づけ)	講義・GW	リフレクションシート
6	『気づき』から『立ち止まり』考えたことからの学びを共有し、リフレクションで きる。	GW・発表	リフレクションシート
7	気づきの演習を通して、『気づき』と『観察』を活用できる。	PBL	リフレクションシート
8	気づきの演習を通して、『気づき』と『観察』を活用し、考えた内容をディス カッションすることで学びを深めることができる。	発表・全体共有	リフレクションシート
【看護師国家試験出題基準との関連】 基礎看護学 目標Ⅰ-2-A、目標Ⅱ-3-A			
受講上の注意		評価方法	
<p>グループ学習を中心とした講義であるため、各自参考資料などから主体的に学習をすること。また、講義・演習の中では協同学習を取れるため自ら積極的に参加すること。</p> <p>臨床判断は看護師のように考えることである。そのため、看護を実践していくうえでは大切な科目であるため、事前学習を含め主体的に学ぶことが必要である。</p>		<p>講義・演習の受講態度</p> <p>リフレクションシート</p> <p>各課題提出状況</p> <p>レポート</p>	
使用するテキスト			
<p>系統看護学講座 専門 臨床看護総論</p>			
参考文献			
<p>適宜提示する。</p>			



## シラバス

科目No	地域包括ケア論	配当時期	1年前期	講義担当者	犬丸 小百合
		単位数	1単位	担当者の実務経験	看護師としての臨床経験21年 看護養成校教員経験13年
		時間数	15時間		
科目全体のねらい・授業目標					
<p>地域で生活する人々の暮らしを理解するとともに、支えあって暮らしが成り立っていることを理解できる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>多様な場で暮らす人、療養する人を理解する</li> <li>その人らしい生活を送るための地域組織活動を理解する</li> <li>地域での健康生活を支える多職種連携の意義と役割を理解する</li> </ol>					
DPとの関連					
<p>DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。</p> <p>DP6: 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。</p> <p>DP7: 専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。</p>					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護の位置づけ</li> <li>地域のなかでの暮らしと健康・看護について <ol style="list-style-type: none"> <li>人々の暮らしを理解する</li> <li>地域・在宅看護の役割</li> </ol> </li> <li>暮らしの基盤としての地域の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>暮らしと地域</li> <li>暮らしと地域を理解するための考え方</li> </ol> </li> </ol>	講義	事前課題: 地域のなかでの暮らしと健康・看護を読み、それぞれの場面にある課題を考えてくる。		
2	C. 地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義			
3	4. 地域の活動に参加し、人々の暮らしについて考えよう。 地域住民との活動(グランドゴルフ)	校外学習	地域の活動(グランドゴルフ)に参加し、コミュニケーションをとり人々の暮らしを知ろう!!		
4	5. 地域における認知症サポーターの活動・役割を知ることができる 認知症サポーターになろう!	認知症サポーター講習	認知症とは、生活における問題について考える		
5	6. 大川市について調べてみよう! 1) 大川市の特徴 2) 生活を支える資源 大川校区の検索: 市役所、警察署、病院、文化センター、体育館、公園、	校外学習 GW	事前課題: 大川市の特徴について大川市のHPより資料提示し①自然環境②社会的環境③健康動態④介護事業⑤医療施設⑥保健施設⑦福祉施設⑧子育て環境⑨文化的環境について自分なりに調べてくる		
6	社会福祉協議会・老人福祉センター、モッカランド、図書館、商店街、 就労支援センター地域包括支援センター、コミュニティセンター、娯楽、 学校、交通安全協会、風浪宮など 3) 人々の暮らし				
7	大川市における地域包括ケアシステムの特徴について理解することができる	GW・発表			
8	調べ学習の発表・まとめ				
【看護師国家試験出題基準との関連】 健康支援と社会保障制度 目標 I - 1-A~B					
受講上の注意 学習課題を明確にして臨むこと!				評価方法	
				筆記試験	90点
				レポート	10点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院					
参考文献					

## シラバス

科目No 地域・在宅看護概論	配当時期	1年生後期	講義担当者 犬丸 小百合
	単位数	1単位	
	時間数	30時間	
科目全体のねらい・授業目標 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解することができる			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・保健・医療・福祉活動の全体像と、地域・在宅看護の概念枠組み、地域・在宅看護の行われる場について理解し、地域・在宅看護を支える重要なはたらきとし訪問看護の役割を理解する。</li> <li>2. 地域・保健・医療・福祉サービス利用に関する法制度と施策、社会資源を活用するためのケアマネジメントについて学ぶ。</li> </ol>			
DPとの関連 DP1: 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3: 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。 DP5: 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。 DP7: 専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 地域のなかでの暮らしと健康・看護がわかる ・人々の暮らしを理解する ・暮らしをイメージし、看護実践にいかす	講義	
2	2. 地域・在宅看護の対象者の特徴とその多様性がわかる A. 地域・在宅看護の対象者 B. 家族の理解 C. 地域に暮らす対象者の理解と看護 【演習】家族を理解する	講義・演習	
3	3. 地域における暮らしを支える看護の役割をイメージすることができる A. 暮らしを支える地域・在宅看護 B. 暮らしの環境を整える看護 C. 広がる看護の対象と提供方法 D. 地域における家族への看護 E. 地域におけるライフステージに応じた看護 F. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 G. 地域での暮らしにおける災害対策	講義・演習	
4			
5			
6	4. 地域・在宅看護実践の場の連携・協働を理解することができる A. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし B. おもな地域・在宅看護実践の場 C. 地域・在宅看護における多職種連携 【演習】多職種との連携・協働を考える	講義・演習	
7			
8	5. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用方法がわかる A. 介護保険・医療保険制度 B. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 C. 訪問看護の制度が理解できる 訪問看護ステーションを設立しよう！	講義・演習	
9			
10			
11	D. 地域保健にかかわる法制度が理解できる E. 高齢者に関する法制度が理解できる	講義	
12			
13	F. 障がい者・難病に関する法制度が理解できる G. 公費負担医療に関する法制度が理解できる	講義	
14			
15	H. 権利保障に関連する制度が理解できる まとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 在宅看護論 目標 I-1-A~G 目標 I-3-A~C			
受講上の注意 事前学習・学習課題を明確にして講義に臨むこと			評価方法 筆記試験 90点 レポート 10点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働協会			
参考文献			

## シラバス

科目No 科目名	SN-017 成人看護学概論	配当時期 単位数 時間数	3年次 1単位 30時間	講義担当者 渡辺洋子
科目全体のねらい・授業目標				
1.成人各期の健康保持・増進と疾病の予防について基本的知識を習得する。 2.成人各期の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴を捉え、総合的に理解する。 3.成人期における健康問題を理解し、健康を促進するための知識を習得する。 4.疾病予防および健康の維持・増進を促進するための看護の役割について基本的知識を習得する。 5.障害のある患者の障害受容について考え、看護の役割について理解することができる。 6.終末期にある患者および家族の特徴を理解し、意思決定支援について理解する。				
DPとの関連	DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP2:人間尊重を基盤として誠実な態度で人間形成をすることができる。 DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。 DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。 DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法		備考
1	成人期の発達課題の特徴と生活について理解する。 (青年期・壮年期・向老期の身体的特徴、青年期・壮年期・向老期の心理・社会的特徴)	講義・演習		○レポート課題①(事前) …「大人になること」について自身の考えをまとめ提出する。
2	成人の特徴と生活について理解する。 (家族形態と機能、生活様式、成人を取り巻く環境、社会状況の変化)	講義・演習		○成人各期における発達課題について事前に学習しレポートにまとめ提出する。
3	事例 成人期にある人の特徴について、発達段階や発達課題から理解する。	講義・演習 GW発表		GW:成人期を取り巻く環境とや社会状況と関連させ、疾病要因を明らかにする。
4	成人における健康の保持・増進や疾病の予防について理解する。 生活習慣に関連する健康課題① (生活習慣病の要因、健康問題の現状と推移、生活習慣の是正、生活習慣病と健康施策、特定健康診査と特定保健指導)	講義・演習		GW:生活習慣病の発症要因と施策について調べ、成人期の健康維持・増進の施策を考える。(健康日本21、がん対策基本法など)
5	成人における健康の保持・増進や疾病の予防について理解する。 職業に関連する健康課題② (就労条件・環境と疾病との関係、労働環境・雇用形態、労働安全衛生法、職業性疾患の要因と健康診断の受診行動、ヘルスプロモーション、職業性疾患と業務上疾病、作業環境管理、ワークライフバランス)	講義・演習		
6	成人における健康の保持・増進や疾病の予防について理解する。 ストレスに関連する健康課題③ (ストレス関連疾患、ストレス対処法)	講義・演習		GW:成人期にある発達課題とストレスを考え、身体的・精神的・社会的影響についてまとめる。 自己のストレスマネジメントに活かす。
7	事例 成人期にある人の健康づくりの必要性について、発達段階や発達課題、社会の動向から理解する。	講義・演習 GW発表		GW:健康づくりに必要な関連因子と支援について考える。
8	急性期にある患者と家族の特徴を理解する。 急性期にある患者の特徴 (身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴、家族の心理的特徴、社会的特徴、危機にある人の理論、インフォームドコンセント)	講義・演習		
9	事例 急性期にある患者・家族の特徴と必要な看護について理解する。	講義・演習 GW発表		GW:事例をもとに、急性期にある患者・家族の特徴と必要な看護について考える。
10	慢性疾患がある患者と家族の特徴を理解する。 慢性疾患がある患者と家族の特徴 (慢性疾患の特徴、慢性疾患とともにあるある生活、治療選択・意思決定への支援、継続的な支援体制と連携)	講義・演習		
11	慢性疾患のある患者の自己管理について理解する。 セルフケア・自己管理への看護および社会的支援の獲得への看護 (セルフケア能力と行動のアセスメント、セルフケアに影響する要因、セルフケアとセルフマネジメント、アドヒアランスとコンプライアンス、健康教育とエンパワーメント、疾病認識と自己モニタリング、生活と自己管理の調整、退院調整と多職種連携、患者と家族のかかえる問題、)	講義・演習		
12	事例 生活習慣病をもつ患者と家族の特徴と必要な看護について理解することができる。	講義・演習 GW発表		GW:事例をもとに生活習慣病をもつ患者・家族の特徴と必要な看護について考える。
13	リハビリテーションの特徴と看護の役割について理解する。 (リハビリテーションの定義、リハビリテーションにおける看護の役割、障害がある人の生活支援と看護、機能障害と分類、ノーマライゼーション)	講義・演習		
14	がん患者と家族への看護について理解する。 がん患者のかかえる苦痛 (転移・浸潤による身体的・心理的苦痛、再発や経過の不確かさに伴う心理的苦痛、社会的偏見や制約に伴う苦痛、スピリチュアルな苦痛、苦痛緩和と意思決定支援、人生最期を支える看護、エンドオブライフケア)	講義・演習・GW		
15	事例 終末期にある患者・家族の特徴と必要な看護について理解する。			GW:事例をもとに終末期にある患者・家族の特徴と必要な看護について考える。 レポート課題②(事後) 終末期について自身の考えをまとめ提出する。
【看護師国家試験出題基準との関連】 成人看護学 目標 1-1-A～C、目標 1-2-A～C、目標 1-3-A～C、目標 1-6-A～D、目標 1-7-A～E、目標 1-8-A～D				
受講上の注意			評価方法	
グループワークにおいては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ？」を追求しながら積極的に学びを深める。			筆記試験 80点 レポート 20点(レポート課題①・②各10点)	
使用するテキスト				
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①				
参考文献				
医学書院 人間発達のための人間発達学				
医学書院 系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護				
医学書院 系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生				

## シラバス

科目No	SN-023 老年看護学概論	配当時期	1年次	講義担当者	前島文子
		単位数	1単位	担当者の実務経験	36年
		時間数	30時間		
科目全体のねらい・授業目標					
1 老年期の特徴を踏まえ高齢者看護の概念を理解する					
2 高齢者と家族の健康・生活を支える保健・医療・福祉の現状と課題を理解する					
DPとの関連					
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。				
DP5	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践することができる。				
DP7	専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続けることができる。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	老いるということ、老いを生きるということ ・高齢者に対する学生の意識確認 ・DVDによる老化について考える	講義・DVD視聴		アンケート調査 レポート課題	
2	「老いる」ということ、加齢と老化、加齢に伴う身体的・精神的・心理的变化①	講義		LTD学習課題	
3	「老いる」ということ、加齢と老化、加齢に伴う身体的・精神的・心理的变化②	LTD学習			
4	加齢に伴う生活の変化が理解できる(疑似体験)①	演習		リフレクション	
5	加齢に伴う生活の変化が理解できる(疑似体験)②	演習・発表			
6	超高齢社会と社会保障① 超高齢社会の統計的輪郭	LTD学習  DVD視聴		LTD学習課題	
7	超高齢社会と社会保障② 高齢社会における保健医療福祉の動向				
8	超高齢社会と社会保障③ 高齢者の権利擁護				
9		発表			
10	老年看護のなりたち 老年看護の役割	LTD学習・講義		LTD学習課題	
11	老年看護のなりたち 老年看護における理論・概念の活用	講義			
12	高齢者のヘルスアセスメント 器官系統別の加齢変化①	LTD学習		LTD学習課題	
13	高齢者のヘルスアセスメント 器官系統別の加齢変化②				
14	高齢者のヘルスアセスメント 器官系統別の加齢変化③				
15	まとめ	講義			
【看護師国家試験出題基準との関連】 老年看護学 目標 I-1-A~D、目標 I-2-A~C、目標 I-3-A~D、目標 I-4-A~C					
受講上の注意 ・協同学習の手法を取り入れる。積極的に学習に取り組むこと。				評価方法 課題:30点 試験:70点	
使用するテキスト 系看 専門分野 老年看護学					
参考文献					

分野	専門分野 I	科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学実習 I	授業形態	臨地実習	時間数	45時間
		開講時期	1年次前期	曜日・時限	月～金
担当教員	安徳秀子 *科目責任:安徳秀子	実務経験			
実習目的	保健医療活動とそこにかかわる職種とその役割を学ぶ。また、療養生活を送る環境と対象の気持ちを理解し、看護の役割について考える。				
実習目標	1. 保健医療活動の実際を見学し、病院で働く職種とその役割を理解することができる。 2. 多職種が連携して働く場での看護の役割を考えることができる。 3. 療養生活を送る対象者を知り、どのような援助がなされているか知ることができる。 4. 対象者とのコミュニケーションにより接し方を学ぶことができる。 5. 対象者とのコミュニケーションから対象者の特徴を知ることができる。				
実習内容			実習方法	学習課題	担当
1. 看護部長からのオリエンテーションを受ける 2. 病棟でのオリエンテーションを受ける 3. 病棟・外来・検査室・薬剤部・栄養課・放射線科・事務部など種々の病院内の部署を見学する。 1) 病棟 (1) 対象者の療養する場を見学する (2) 対象者に行われている援助を見学する (3) 病棟での対象者への看護師の関わりを見学する ① 看護師(※3年生)とともに行動し、対象者とのコミュニケーション場面の見学をする ・対象者に合わせた挨拶 ・適切な言葉遣い、聴く姿勢 ・対象者の気持ちを考慮した言動 ② 対象者とのコミュニケーションをはかる ・接近的コミュニケーション ③ 対象者に必要な援助について見学する ④ 対象者の特徴を知る (4) 病棟での多職種の対象者への関わりを見学する (5) 病棟での多職種と看護師との連携を学ぶ (6) 対象者の状況を収集した情報より対象者の特徴を知る 2) 外来・検査室・薬剤部・栄養課・放射線科・事務部など (1) 病院内での多職種について見学・オリエンテーションより知る (2) 見学実習:各部署で働く職種について (3) インタビュー:各部署で働く職種への役割について (4) 職種との役割についてまとめる (5) 外来・病棟での多職種と連携している看護の仕事を見学する			高木病院 実習	実習に関する学習と実習記録	安徳
【終了後レポート】 実習記録の提出					
テキスト	藤崎郁他著:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I				
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度などを総合的に評価表に沿って評価する				
関連科目	・人の身体のしくみと病気 I～VI ・看護学概論    ・看護理論    ・看護倫理    ・看護とコミュニケーション    ・看護技術 I    ・看護技術 II				
テキスト	・古橋 洋子監修 : 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 ・看護者の倫理綱領 照林社 ・江川 隆子編集 : ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断 第3版 ヌーベルヒロカワ				
備考	・初めて1週間の臨地実習であり、実習までに机上学習の振り返りを行い、また臨地での実習では実習に相応しい身だしなみで臨むようにすること				

分野	専門分野 I	科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学実習 II	授業形態	臨地実習	時間数	45時間
		開講時期	1年次後期	曜日・時限	月～金
担当教員	安徳秀子 *科目責任:安徳秀子	実務経験			
実習目的	対象者の日常生活を観察することで、重要なことに気づき、既習の看護技術を適応させて日常生活援助を行うことができる。				
実習目標	1. 対象者の療養生活や療養環境を知ることができる。 2. 対象者の療養生活や療養環境を観察することができる。 3. 対象者とのコミュニケーションや日常生活行動を観察し、対象者の全体像を知ることができる。また、看護が必要な事柄に気づくことができる。 4. 観察や気づきと既習の知識や経験を関連づけて考えることができる。 5. 看護師とともに行動し、看護師の臨床判断の意味を考えることができる。 6. 看護師とともに行動し、対象に必要な日常生活援助を指導のもと科学的根拠に基づき経験できる。				
実習内容			実習方法	学習課題	担当
1. 病棟オリエンテーション (※電子カルテについてのOR) 2. 看護師と対象者およびその家族とのコミュニケーションの見学し、自らかかわろうとベッドサイドへ行く ※プロセスレコードを記載する 3. 対象者の療養生活の環境を知る 1) 対象者が日常生活する場所の照度計や騒音計を用いた観察 2) 快適な環境調整 4. 日常生活援助の見学、共に実施する 1) 対象者とのコミュニケーション、電子カルテ、日常生活援助の中より情報収集を行う 2) 自己紹介を行い、積極的にコミュニケーションをとる 3) 療養生活の環境は、基礎看護学技術Ⅱ、看護技術プラクティスを参照し観察する。 環境整備、ベッドメイキング 日常生活援助 (全身清拭、更衣、洗髪、食事介助、口腔ケア、手浴、足浴、排泄援助、活動・休息の援助、体位変換など) ※援助前・中・後の患者の反応や実施後の観察をする 4) コミュニケーションや援助の中から、既習した学習内容や援助技術方法 (対象者への援助内容) を観察する。 5) 観察した内容より、対象者になぜその援助が必要であるのかを考える。 6) 対象者に必要な援助を看護師と共に実施する。 ( ) 援助した内容は実習の記録用紙に毎日記載し、振り返り翌日の実習に生かす。 5. カンファレンスで援助を振り返る			高木病院 実習	実習に関する学習と実習記録	安徳
	【終了後レポート】 実習記録の提出				
テキスト	藤崎郁他著:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ				
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度などを総合的に評価表に沿って評価する				
関連科目	・人の身体のしくみと病気Ⅰ～Ⅵ      ・病理学総論 ・生物学      ・物理学      ・発達心理学      ・人間関係論      ・倫理学 ・看護学概論      ・看護理論      ・看護倫理      ・看護とコミュニケーション      ・看護技術Ⅰ・Ⅱ ・看護過程と臨床判断能力Ⅰ				
テキスト	必要時提示する				
備考					

分野	専門分野	科目番号		単位数	1単位
科目名	地域・在宅看護論実習 I	授業形態	臨地実習	時間数	45時間
		開講時期	1年次	曜日・時限	月～金
担当教員	犬丸 小百合				
授業の目的	地域の特徴や暮らしを知ることで、大川市(地域)の包括的な支援・サービス提供体制である地域包括ケアシステムについて理解することができる。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の社会背景から大川市の地域背景を知り、大川市に暮らす人々の特徴を説明することができる</li> <li>2. 大川市における「暮らしを支える」ための医療・介護・予防・住まい・生活支援のための社会資源を知り、社会資源の必要性を説明できる</li> <li>3. 大川市における「暮らしを支える」ための地域活動が人々の健康維持・増進・予防のための活動について説明できる</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	学習課題	担当
	実習まで	<b>【実習オリエンテーション】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護論 I 臨地実習について</li> <li>2) 地域・在宅看護論実習の位置づけ、目的・目標、方法</li> <li>3) 実習についての学生心得</li> <li>4) 実習記録について</li> <li>5) 週間予定表について</li> <li>5) 通学方法、服装について</li> <li>6) 集合場所の確認・連絡方法・注意事項について</li> </ol>	学内		犬丸
	実習1日～5日	<b>【実習の実際】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大川市の社会背景、特徴について</li> <li>2) 大川市の看護・福祉・医療ニーズについて</li> <li>3) 大川市の医療施設・介護施設・予防事業・住まいの特徴・生活支援活動内容(地域包括ケアシステム)について</li> <li>4) 大川市の地域活動における自助・互助・共助・公助について</li> <li>5) 大川市の地域活動におけるパートナーシップについて</li> <li>6) 大川市の暮らしを支えるための多職種連携について</li> </ol>	大川市	実習内容に応じた事前学習	教員が実習配置により指導に入る
	終了後	実習のまとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習記録のまとめ・グループ討議</li> <li>2) 実習の学びをグループで発表・全体共有</li> </ol>	学内	実習目標に沿って学びをまとめ共有	全教員
		<b>【終了後レポート】</b> 実習記録の提出			
評価方法	在宅看護論実習 I の実習評価表に基づき評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院				
参考図書・参考文献など	大川市のHP、実習場所のHP、大川市健康ガイドブック、その他資料など				
備考					